



お客さまに必要とされる
「なくてはならない会社」を目指して



プリマハムはお客さまとの絆を大切に、
食のおいしさ、人とのふれあいを通じて
楽しく豊かな食の未来を創造していきます



報告書について

報告期間	2015年度(2015年4月～2016年3月)を中心としていますが、2015年度以前・以降の活動についても一部掲載しています。
対象範囲	プリマハム株式会社およびプリマハムグループ会社(計35社)の報告を対象としています。文中でプリマハムグループを対象としていない場合は、個々に対象範囲を記載しています。
発行時期	2016年9月発行
次回発行予定時期	2017年9月発行
参照ガイドライン	[ISO 26000 社会的責任に関する手引き] (国際標準化機構) [環境報告ガイドライン(2012年版)] (環境省) [サステナビリティ・レポート・ガイドラインVer.4] (Global Reporting Initiative)
お問い合わせ先	〒140-8529 東京都品川区東品川4-12-2 品川シーサイドウエストタワー プリマハム(株) 環境管理部 TEL : 03-6386-1832 FAX : 03-5462-1716 http://www.primaham.co.jp/

会社概要 (2016年3月末現在)

社名	プリマハム株式会社 Prima Meat Packers, Ltd.	創業	1931年9月1日
所在地	〒140-8529 東京都品川区東品川4-12-2 品川シーサイドウエストタワー	資本金	79億8百万円
TEL	03-6386-1800(代表)	決算期	3月31日
代表者	代表取締役社長 松井 鉄也	従業員数(連結)	13,634名(臨時従業員を含む)
事業内容	ハム・ソーセージ、食肉および 加工食品の製造販売	事業所	営業拠点 …………… 6支店 25営業所 生産拠点 …………… 4工場
		グループ会社	35社 連結子会社 …………… 28社 持分法適用関連会社 …………… 7社

編集にあたって

プリマハムグループは、2006年から「社会・環境報告書」の発行を開始し、当社グループの事業と社会的責任へのかかわりや取り組みの現況について報告しています。本2016年も、従来と同様にお客さまや株主様、調達先様、従業員、地域社会というステークホルダー別に章立てをするとともに、環境保全に関する活動を報告しています。また、「2016～2018年度 中期経営計画(ローリングプラン)」の重点施策のひとつである「営業力強化」について説明しているほか、2016年5月に完成した茨城工場の新ウインタープラントを紹介しています。

CONTENTS

社会・環境報告書
2016

社長メッセージ

お客さまに必要とされる
「なくてはならない会社」に向けて
着実な歩みを進めています

代表取締役社長 松井 鉄也



3

プリマハムの成長戦略

5

新プラント紹介

7



マネジメント



9

お客さま
とともに



13

株主様とともに



22

調達先様
とともに



23

従業員
とともに



26

地域社会と
ともに



36

環境との共生



41

環境パフォーマンス
データ



53

グループ概要

57

お客さまに必要とされる 「なくてはならない会社」に向けて 着実な歩みを進めています

プリマハム株式会社
代表取締役社長

松井 鉄也

お客さまからのご支持を得て 業績が好調に推移し 売上高と純利益が過去最高となりました

おかげさまで、この一年のプリマハムグループの業績はたいへん好調で、売上高と純利益については過去最高を記録しました。こうした好調さの要因としては、販売数量を伸ばしていることに加え、生産性の改善があげられます。近年、従業員一人あたり、単位時間あたりの生産量が大きく向上しており、それが収益力の強化に直結しています。

商品別に見ますと、ハム・ソーセージでは、主力商品の

「香薫 あらびきポーク」が好調で、お客さまの支持を得て売上高が業界2位の商品に成長しました。

加工食品も、分野ごとに柱となる商品が伸び、新商品についても手応えを感じています。これも開発部門と営業部門がしっかりとコミュニケーションを取り、知恵を出しあっている成果だと考えています。

成長に向けた施策を実施する一方で 改善すべき課題もありました

こうした好調さを継続し、さらなる成長を実現していく

ため、前年度から開始した設備投資をはじめ、さまざまな施策を推進しました。

まず、茨城工場で建設を進めてきた新ウイナープラントが完成し、2016年6月から稼働を開始しました。新工場の大きな特徴は、環境に配慮した工場だということ。省エネ化を徹底した結果、従来の工場と比較して電力使用量の2割削減が見込めます。また、徹底した自動化により、生産性は従来比35%アップを見込んでいます。新工場の稼働によってウイナーの生産能力は1.5倍に拡大しますので、競争力のさらなる向上が期待できます。

また、プライムデリカ(株)では相模原第二工場が着工しました。同社は、需要が拡大しているコンビニエンスストア向け総菜を生産しており、第二工場では、生産性の向上を図るための省人化・自動化の生産ラインを構築し、この需要を取り込む考えです。

生産体制の拡充に加えて、「革新的ものづくり」にも注力しました。これは、新商品の開発だけでなく、工場の運営手法や製造方法なども含めたさまざまな面で、“今の常識は非常識”という発想を持って革新していこうという取り組みです。当事者はそれまでの手法に縛られがちですので、いろんな組織の視点や発想を持ち寄って“気づき”を生み出していくことが大切だと思っています。

海外市場開拓については、100%子会社2社を置くタイを中心に、ASEAN諸国への浸透が進みました。特にプリマハムタイランド社は、海外でハム・ソーセージ・ベーコンのJAS(日本農林規格)認定を取得した業界初の工場であり、安全・安心な食品を、日本だけでなく、現地市場にも供給しています。当初は日系のスーパーやコンビニ、レストランが主体でしたが、今期は複数の現地スーパーでも販売を開始しており、より地域に身近な存在となっています。今後はタイでの販売を強化するとともに、シンガポールやラオス、ミャンマーなど周辺地域にも販路を拡大し、将来的にはASEAN諸国向けが2~3割を占めるまでに伸ばしていきたいと考えています。

こうした成果があった一方で、反省点としては、食肉事業部門において輸入冷凍牛肉在庫の大きな評価損の計上

がありました。これは、管理が徹底されなかったためであり、今後の成長のためには、開発や営業など“攻め”だけでなく、管理など“守り”もしっかりしないといけないと痛感しました。今回の失敗を教訓にして、二度と繰り返さないようにすることが肝心です。

お客さまや社会から 信頼される企業となるため 人づくりと風土づくりに注力しています

経営方針に掲げる「お客さまに必要とされる『なくてはならない会社』」となるには、お客さまはもちろん、調達先様や販売先様、株主様など、さまざまなステークホルダーからの信頼が欠かせません。「安全・安心」は、そのための基本といえますが、近年では異物混入など食品業界全体の信頼性を揺るがしかねない事態が発生しています。

これらを防ぐためには、監視カメラの導入などハード面の対策も必要ですが、私はむしろ、従業員の気持ちを大切にすることが肝心だと思っています。私をはじめ、上に立つものももっと現場に出て、従業員一人ひとりと何でも話せる関係をつくっていかねばなりません。従業員を大事にすることで、従業員の間で「自分の働いている会社を、自分のつくっている商品を大事にしよう」という気持ちが育まれ、お客さまに愛される商品をつくり、販売していく。それが私の望みであり、プリマハムグループのさらなる成長へのシナリオです。

経営理念

— プリマの原点 —

- 一、正直で基本に忠実
- 一、商品と品質はプリマの命
- 一、絶えざる革新でお客さまに貢献

CSRの基本的な考え方

プリマハムグループのCSR(企業の社会的責任)とは、経営理念の実践そのものであると考え、持続可能な社会の実現に向け、事業活動を通じて社会と食文化に貢献していきます。

- 安全・安心でおいしい商品を安定的に提供し、健康で豊かな食の未来を創造していきます。
- 食品企業として培った技術や知見を活かして、地球環境問題をはじめとした社会的な課題に取り組みます。
- ステークホルダーと積極的にコミュニケーションを図り、地域や社会の期待・要請に応えていきます。

「営業力強化」に向けて

3つの視点から営業力に磨きを掛け シェア拡大を目指す

プリマハムグループは、「2016～2018年度 中期経営計画(ローリングプラン)」において総合的な営業力・開発力の強化によって売上拡大を図ることを方針に掲げています。ここでは、そのための重点施策のひとつである「営業力強化」について、営業本部長の矢野が説明します。

シェア拡大に向けて、ブランド認知の強化と販売先様との関係強化を推進

近年の消費市場では、節約志向が浸透する一方で、商品の質と価格を厳しく見極める“価値志向”が強まっています。また、私たちの商品を販売していただく流通業界においては、グループ化や寡占化が進む一方で、Eコマースを含めた販売形態の多様化が進んでいます。プリマハムグループは、こうした激しい環境変化のなかで持続的な成長を実現するため「シェア拡大」を方針とした営業活動を推進しています。

そのために、まず注力したのが、消費者の皆さまに対するブランド認知の強化です。テレビCMに加え、若年層に訴求力の高いLINEに着目し、食肉業界で初めて公式アカウントを開設。無料スタンプの配布

などにより、開設から現在までで「友だち」数が700万人に近づく大きな反響を得ました。また、東京ディズニーランド®、東京ディズニーシー®のオフィシャルスポンサーであることをいかした消費者キャンペーンも継続的に実施しています。

加えて、消費者との接点である販売先様との関係強化にも取り組みました。体制面では、各支店のエリア区分を販売先様にあわせることで、スムーズな協働が可能になりました。また、アイテム数を絞って重点的に販売したことが、店頭での売場スペース確保につながりました。こうした“選択と集中”は、生産現場の効率向上にも貢献しています。

営業力強化による
成長実現

販売先様との関係強化

- 組織再編による融合
- アイテム集約

ブランド認知の強化

- テレビCM
- LINE
- キャンペーン

営業担当者の強化

- 教育・研修の充実
- 携帯用情報端末の配布

シェア拡大による
持続的な成長へ

営業の“質”を高める取り組みが確かな成果に

営業力の強化には、こうした組織的な対応以上に、営業担当者一人ひとりの創意工夫が重要です。そこで、階層別教育やスキルアップ教育、海外研修など、教育・研修の充実を図るとともに、営業スタイルの变革にも取り組んでいます。

具体的には、営業担当者一人ひとりに携帯用情報端末を配布。営業現場での社内資料の参照や、それらを駆使した顧客へのプレゼンテーションが可能になります。また、外出先から必要な情報を会社に発信することで、営業先からオフィスに戻る必要がなくなるなど、より柔軟な働き方が可能となり、従業員のワーク・ライフ・バランス向上にも寄与するものと期待して

います。

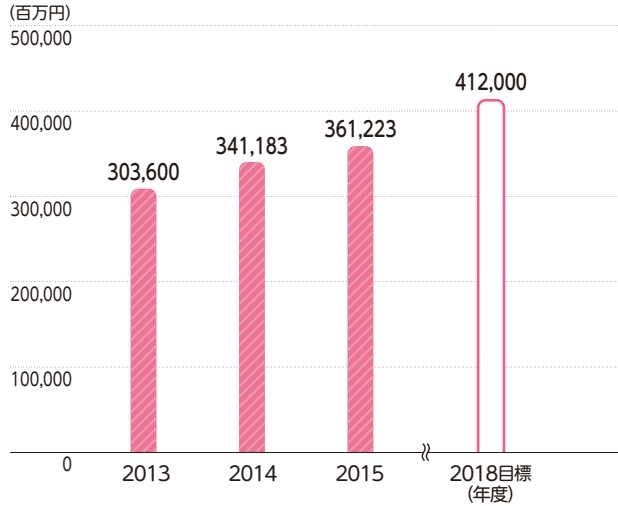
こうした多方面からの改革によって、コンシューマーパックスのハム・ソーセージ分野では売上げ、販売数量とも5年連続でシェア拡大を果たし、なかでも注力商品である「香薫 あらびきポーク」は、発売当初の業界5位の売上げから2位にまで成長しました。

今後も安全・安心で魅力的な商品を、より多くのお客さまにお届けできるよう、営業力に磨きを掛けていきます。

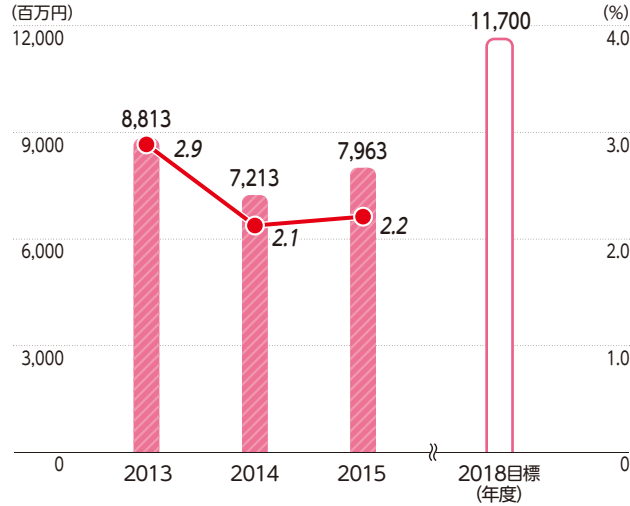
常務取締役 営業本部長
矢野 雅彦



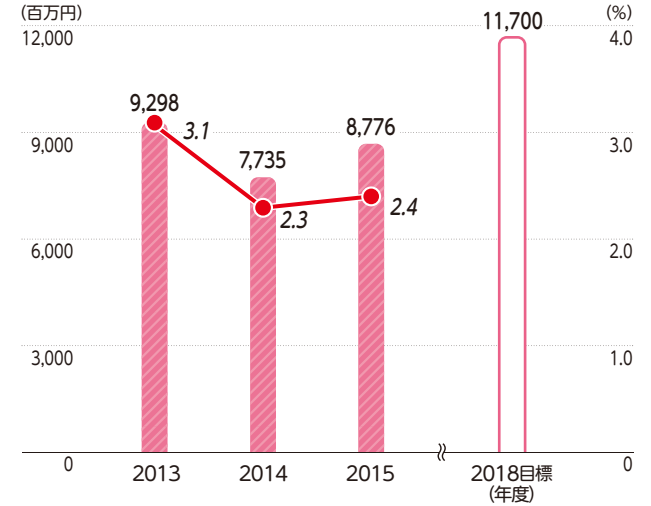
■ 売上高



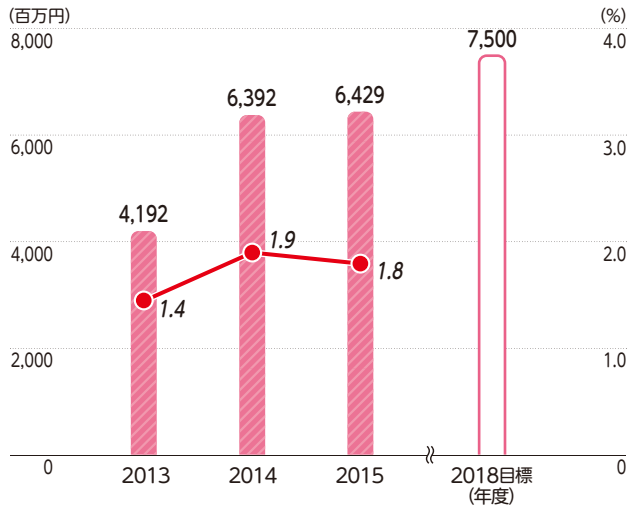
■ 営業利益



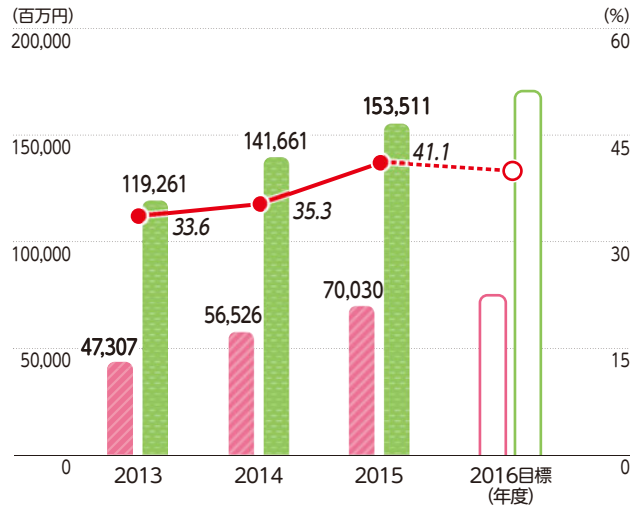
■ 経常利益



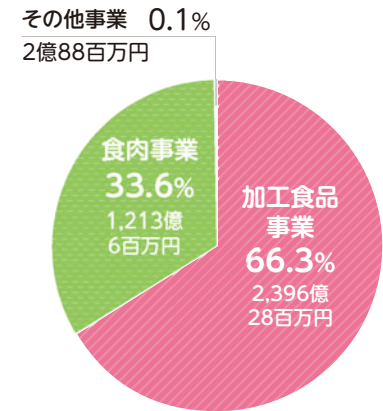
■ 親会社株主に帰属する当期純利益



■ 純資産 ■ 総資産



セグメント別売上構成比 (2015年度)



新プラント紹介

茨城工場に最新鋭のウイナープラントが誕生しました

ウイナー・フランクの生産能力を強化するため、茨城工場で建設を進めてきた新プラントが、2016年5月に完成しました。

最新鋭プラントならではの効率的で環境負荷が少ない生産体制のもと、おいしくて、安全・安心な商品をつくっています。



新ウイナープラント概要

所在地
茨城県土浦市中向原635
敷地面積
119,860平方メートル

【工場長メッセージ】

最先端の設備を導入するとともに
食品メーカーとしての基本を大切にしています

新プラントの建設にあたって目標としたのは、「さらなる生産効率の向上」と「工場の省エネルギー化」でした。その実現に向けて、設備メーカーの協力のもと独自の設備を開発したり、製造ラインを一本のラインにするなど、さまざまな創意工夫を凝らしました。業界でも最高水準のプラントになったと自負しています。

今後は、このプラントを“マザー工場”としてプリマハムグループ全体に生産ノウハウを広げ、食品メーカーとしての基本を大切にしながら「安全・安心」をレベルアップし、よりお客さまに喜ばれる商品づくりに励んでいきます。



茨城工場 工場長
中田 裕昭

Point

- 生産効率の向上
- 環境配慮の強化
- 安全・安心のレベルアップ
- 地域社会との共生

新プラント紹介

安全・安心のレベルアップ



茨城工場 品質管理課
中安 健輔

厳格な衛生管理によって信頼性を高めています

新プラントでは、ISOなど国際的な食品安全基準に準拠するのはもちろん、衛生面での信頼性を高めました。例えば、工程間で従業員や原材料が交差しないよう、人や原材料の動線が一方通行になるよう工夫するとともに、湿度管理の徹底や洗浄効率の向上によって工程内の衛生面を強化しています。また、衛生レベルによって施設内を区画し、担当以外のゾーンには立ち入れないようにしています。



ゾーンごとに従業員の出入口を分け、ICカードによって入退室を厳密にチェック



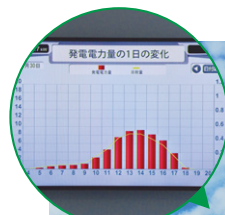
金属検出機やX線検査装置により異物混入を防止



殺菌効果の高い微酸性電解水による手洗い、うがいを徹底

環境配慮の強化

茨城工場 生産技術課
柴田 亨



壁面を利用した太陽光発電システムを導入するとともに発電状況や省エネ効果を“見える化”

グリーンファクトリーを目指し環境配慮を徹底しました

近年の生産設備では、環境への配慮も重要なテーマです。新プラントでは、生産効率を高めるためにムダの排除に取り組んだことが、プラント全体の大幅な省エネルギー化に寄与しています。加えて、エネルギー効率の高い給湯システムや発電時にCO₂を排出しない太陽光発電システムの導入などによって電力使用量を20%削減するなど、クリーンな生産環境を実現しています。(→P52にも関連情報)



冷凍機の冷媒にはオゾン層に悪影響をもたらすフロンを利用せず、自然冷媒を採用

地域から愛される工場となるよう努力しています

地域社会との共生

茨城工場は、これまでも地域イベントへの参加や敷地内での納涼祭りの開催など、地域社会との交流を図ってきました。さらに地域交流や外部コミュニケーションの新たな展開として、新プラントではお客さまに工場内を見学いただけるように見学専用通路を設け、原材料処理から商品包装までの一連の工程を見渡せるようにしました。

今後も、お客さまとのコミュニケーションを大切にしながら、信頼に応える茨城工場の“ものづくり”を進めていきます。



ラインの流れを把握でき、子どもたちにも見やすく配慮した見学通路



茨城工場 総務課
山田 卓司

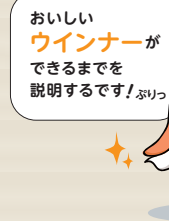


ボイラーに燃焼時の環境負荷が少ないLPG(液化石油ガス)を採用

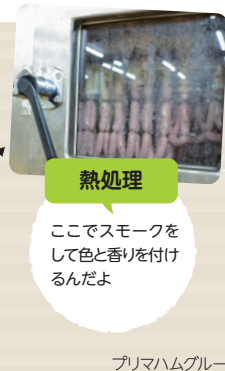


潤滑油が必要ない“オイルフリー”のコンプレッサーを採用

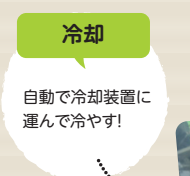
生産効率の向上



おいしいウインナーができるまでを説明します! **ミキシング**
選ばれた材料とスパイスを練り合わせておいしくするよ!



熱処理
ここでスモークをして色と香りを付けるんだよ



冷却
自動で冷却装置に運んで冷やす!



包装
コンピュータが自動計測して高速にパック詰めをしているんだ

検査
異物が混ざっていないか最後の検査!

新プラントの完成を記念して、730グラム入の大袋「香薫 あらびきポーク」を発売しました!



なんと内容量が通常の**8倍!**





社会から信頼される企業グループを目指して 経営の透明性を高めています

コーポレート・ガバナンス

社会から信頼され続けるために グループ全体のガバナンスを強化

プリマハムグループは、透明性の高い誠実な経営を遂行し、変化に対応した意思決定を適切かつ機動的に実行すべく、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいます。

2015年は、より公平でかつ透明性の高いコーポレート・ガバナンス体制を構築するため、「コーポレートガバナンス基本方針」「株主との建設的な対話を促進するための体制整備・取組みに関する方針」「社外役員の独立性に関する基準」を策定し、当社Webサイトにも開示しています。

また、中期経営計画の基本方針のひとつに「コーポレート・ガバナンス強化とCSR推進による継続的な経営革新」を掲げており、今後もプリマハムグループが一体となった品質保証、コンプライアンス、人材育成、環境活動などを強化し、グループの企業価値の向上を図っていきます。

● コーポレートガバナンス・コードへの対応

2015年6月1日から適用された「コーポレートガバナンス・コード」に対応するために、株主総会招集通知の英訳を実施したほか、開示資料の英語版を作成し、当社Webサイトにて開示(→P22)しています。

また、取締役、監査役、執行役員の人選や報酬に関する決定プロセスにおいて、より公平性・客観性を確保し、コーポレート・ガバナンス体制を一層強化していくために、取締役会の任意の諮問機関として「経営諮問委員会」を設置しました。

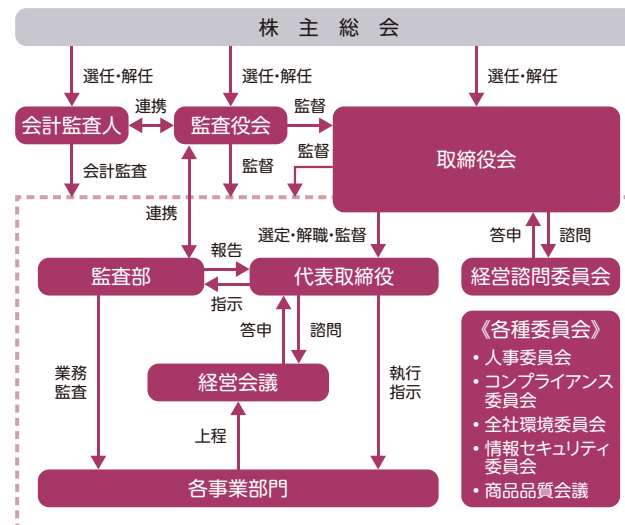
経営会議・専門委員会による 十分な審議でガバナンスを強化

プリマハム(株)は、「監査役会設置会社」の形態をとっています。

取締役会は、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定し、業務執行状況を適正に監督しています。2015年度は16回開催し、規定・規則に定められた案件や重要な案件について審議・決定しました。

執行役員は、取締役が的確かつ迅速に意思決定できるような経営会議に出席し、取締役とともに経営方針や重要事項について十分に審議しています。商品の品質や設備投資、人事政策やコンプライアンスなど個別課題については、各専門委員会において活発かつ慎重に審査しています。

コーポレート・ガバナンス体制図



監査役は、取締役の業務執行が適切であるか、その役割と責任が果たされているかを厳正に監査しています。監査役は経営会議や社内委員会にも出席しているほか、監査部、経理部などとも密接に連携しています。

また、2015年度は取締役会全体の実効性を確保するため、独立社外取締役・社外監査役を含む全員にアンケートを実施し、その分析・評価結果をもとに取締役会で議論を交わしました。評価結果の概要は、当社Webサイトで開示しています。

専門性や経験をもとに社外取締役・ 監査役が適切にアドバイス

2016年6月末、業務執行取締役を監督する機能強化のために新たな社外取締役を1名増員し、2名としました。これによって取締役9名のうち2名が社外取締役、監査役3名はすべて社外監査役となっています。

社外取締役および社外監査役に対しては、経営判断や監査について社外の視点から適切かどうかの判断を仰いでいます。また、法的な解釈に基づいた助言や社会・市民の目線での改善提案に加え、グローバル企業における製造、経営企画、企業経営の分野での高度な専門知識と豊富な経験からの視点で、さまざまなアドバイスを受けています。さらに、アドバイスが適正かつ客観的な内容となるように、社外取締役、社外監査役は当社と重要な利害関係のない有識者から選任することとしています。

なお、2015年度の実効性評価出席率は、社外取締役が94%、常勤の社外監査役が98%でした。

内部統制

グループ会社を定期的に訪問し 内部統制の整備・運用状況を監査

プリマハム(株)の監査部は2013年度に監査手法を見直し、監査方法を従来の営業拠点を中心とした「拠点監査」から、「本部監査」「支店・工場エリア監査」「拠点監査」の3つの形態としています。これによって対象範囲を拡大し、それぞれの組織における課題を明確にしています。

また、監査部はプリマハムグループの内部統制の充実を図るため、グループ会社を定期的に訪問して内部統制の整備・運用状況を監査しています。さらに監査時の指摘事項に対する改善計画と改善結果報告を提出してもらうなど、継続的な確認をしています。

VOICE

当社グループの内部統制を強化しています

監査部は、財務報告にかかわる内部統制報告制度に基づき、内部統制の整備状況や運用状況の評価を行いながら、業務の有効性・効率性の向上や法令順守の体制整備にも取り組んでいます。

また、当社やグループ会社の業務監査を実施するとともに、是正状況の進捗管理を通して、プリマハムグループ全体の内部統制体制の維持・向上にも取り組んでいます。



監査部
渡辺 正行

コンプライアンス

グループ全体で コンプライアンスを強化

プリマハムグループは、行動指針のなかで「法令・社内規定等のルールを厳格に順守する」ことを掲げており、「誇りと責任を持って職務を遂行すること」、「社会に貢献し、適正な利益の確保に努める」ことを明記しています。

また、そうしたコンプライアンスについての考え方を周知徹底するため、小冊子「行動規範実践の手引き」を作成し、適宜改訂を加えながら、全従業員に配布しています。

● コンプライアンス委員会や グループ会社コンプライアンス連絡協議会の開催

プリマハム(株)は、経営層を委員とする「コンプライアンス委員会」を定期的に開催しています。2015年度は、コンプライアンス関連事例について共有したほか、2016年度新たに実施する「コンプライアンス意識調査」について審議しました。

また、グループ全体のコンプライアンス体制を維持・強化するために、国内・海外グループ会社社長をコンプライアンス責任者として配置しています。年1回開催している「グループ会社コンプライアンス連絡協議会」には、2015年度は国内グループ会社25社が出席し、マイナンバー制度に伴う情報管理、コンプライアンス関連事例、国内グループのコンプライアンス意識調査の実施方法について協議しました。

● 各種研修を定期的に実施

コンプライアンス研修は法務部が、パワハラ・セクハラ防止研修は人事部などが全国各地の事業所を訪問し、現場の業務内容を踏まえて説明・指導しています。

2015年度は前年度に引き続き、国内事業所・各支店、グループ会社の管理者を対象に、コンプライアンスの基本を復習するとともに、社内コンプライアンス関連事案の傾向と概要、ハラスメント防止についても情報を共有しました。また、外部講師を招いて役員向けコンプライアンス研修、グループ会社新任取締役向け研修も実施しました。

● コンプライアンス意識調査の実施

2016年8月、国内グループ会社の全従業員を対象とした「コンプライアンス意識調査」を実施しました。この結果をもとに、従業員のコンプライアンスに関する理解度や職場でのマネジメント状況などを把握するとともに、施策や仕組みの有効性を検証しています。海外グループ会社においては実施時期や方法を検討中です。



コンプライアンス研修の様子

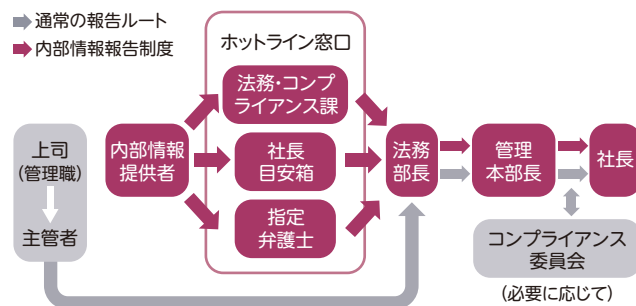
「ホットライン窓口」を運用

プリマハムグループは、2006年から内部情報報告制度「ホットライン窓口」を運用しています。社外弁護士を含む複数の相談窓口を置き、法令・社内ルール違反などについての報告はもちろん、業務上の疑問・相談も受け付けています。また、電話・メール・投書それぞれの通報形態に対応しており、いつでも従業員が相談できる体制を整えています。

この窓口については、従業員を対象にしたコンプライアンス研修でも紹介しているほか、ポスターの掲示やイントラネットに記載して周知しています。また、海外においても同様の仕組みを設けています。

セクハラやパワハラ相談については、おもに「セクハラ／パワハラ相談窓口」が対応しています。セクハラ相談については、専用窓口にて女性担当者が電話やメールで直接相談・苦情を受ける体制をとっています。さらに、近年重要性が増しているメンタルヘルスについては、外部の専門会社とも連携し、不調を抱えた従業員への迅速かつ

ホットライン窓口



組織的な対応を行っています。

窓口寄せられる相談や通報は匿名でも可能としており、報告者のプライバシーを守り、不利益な扱いを受けることがないように配慮しています。

グループ全体の 情報セキュリティ管理体制を確立

プリマハム(株)では、個人情報保護法に基づき、お客さまやお取引先様の個人情報を含むさまざまな情報の保護に努めるとともに、その指針として「プライバシーポリシー」「個人情報保護規則」を策定しています。

加えて、「情報セキュリティ委員会」と、部署ごとの情報セキュリティに責任を持つ「情報セキュリティ管理者」を設置し、全社をカバーする情報セキュリティ管理体制を確立しています。また、日々の業務のなかで特に注意すべき項目を「情報セキュリティ重点項目」として各職場に掲示し、従業員の注意を喚起しています。一方、グループ会社ではコンプライアンス担当役員が情報セキュリティ管理者を担っています。

2015年度は、経産省のガイドライン改定やマイナンバー法施行に伴い、項目追加や内容の変更など情報セキュリティ規定を見直しました。

● ISO/IEC 27001の認証を取得

プリマハム(株)の情報システム部門が独立して誕生し設立されたプリマシステム開発(株)は、情報セキュリティを確保・維持するために、2004年11月に情報セキュリティマ

ネジメントシステムの適合性評価基準である「ISMS認証基準(Ver.2.0)」の認証を取得。2007年3月には、国際規格「ISO/IEC 27001」への移行を完了しました。さらに、2015年9月に更新審査を受け、新規格「ISO/IEC 27001:2013」(JIS Q 27001:2014)への移行を完了しました。

● 「ソーシャルメディアポリシー」を策定・公開

近年、企業の従業員がTwitterなどのソーシャルメディア上に不用意に内部情報を書き込み、拡散させてしまう事例が増えています。

プリマハムグループでは、2013年7月に基本ポリシーとソーシャルメディアに対する心構えなどについてまとめた「ソーシャルメディアポリシー」を策定し、当社Webサイト上で公開しています。

 <http://www.primaham.co.jp/socialmediapolicy.html>

● インサイダー取引防止のために「J-IRISS」に登録

インサイダー取引を防止するために、プリマハムグループでは、年1回、「内部情報管理および内部者取引(インサイダー取引)規制に関する規定」に定められた内容を確認するよう通知しています。

さらに、部長以上を全員、日本証券業協会が提供するデータベース「J-IRISS(ジェイ・アイリス)」に登録しています。このデータベースに登録しておくことで証券会社が照合・確認でき、インサイダー取引を未然に防止できます。

Topic 「マイナンバー」への対応

個人情報については、プリマハム(株)は情報システム担当役員が、グループ会社では社長もしくはコンプライアンス担当役員が責任者となり、管理しています。

「マイナンバー」については、特定個人情報であり、徹底した安全管理を行う必要があることから、基本的にデータを社内に持たず、その運用を外部業者に委託しています。

委託業者は、信頼できる業者を選定し、安全管理状況を確認しています。

リスクマネジメント

リスクを明確にし 各管理部署が対策を強化

事業に伴うさまざまなリスクを明確にし、その影響を最小限に抑えるために、想定される事業所のリスクとそれぞれの管理責任部署を「リスク管理規定」に定めています。この規定に基づいて、各管理責任部署では対策を講じる必要があるリスクを特定し、対策を講じています。

● 「異物混入」のリスク低減のために

食品メーカーにとって異物混入は業種固有のリスクともいえる問題です。特に海外からの原材料調達では、養豚場や船舶などでの輸送時は直接管理できないリスクを抱え

ています。そこで当社では、そのリスクを低減するために、2015年度にアメリカの調達先様のもとに「インスペクター(検査者)」を半年間派遣し、異物混入チェックや生産現場でのアドバイスなどを実施しました。その結果、異物混入の減少や現場の意識向上といった効果が得られました。

国内においては2015年も引き続き製造工程でのチェックを強化しました。例えば、1分間に約2,000個のソーセージが流れていくラインではX線などのさまざまな技術を駆使して異物検出に務めています。



X線を導入した製造ライン

● フードディフェンスの強化

プリマハムグループでは、工場に私物を持ち込めないよう作業着のポケットはすべて外すか縫いつけることを原則としています。また、作業着の背面には名前を明記したゼッケンをつけて、誰が作業しているかがわかるようにすることにしているほか、監視カメラを増設するなどしてフードディフェンスを強化しています。



作業者がわかるように名前を表示

食品メーカーの供給責任を果たすため 事業継続計画(BCP)を策定

東日本大震災を教訓に、災害時のサプライチェーン維持を目的とした事業継続計画(BCP)を2012年4月に策定しました。以来、半年ごとに関連部署の課題を集約し、対応策を検討・実施しています。

2016年3月31日現在、全国51の事業所で3日分の非常食や水、非常用トイレなどの災害用備蓄品の完備を終えました(2017年度中に交換予定)。また、本社では100枚の毛布を新たに配備したほか、東日本大震災の経験をいかし、乾電池で駆動するPHSを各事業所に配備して災害時も迅速な対応ができる体制を整えています。

● 年2回「緊急連絡網」を配布

プリマハム(株)では、BCP(事業継続計画)対策の一環として、緊急時に安否確認や被害把握をするための「緊急連絡網」を管理者に配布しています。また、最新情報を反映するため、7月・12月の年2回更新しています。

● 「地震等自然災害時対応マニュアル」を策定

プリマハム(株)は、1995年に「地震等自然災害時対応マニュアル」を作成し、定期的な内容の見直しをしています。このマニュアルには、「災害時の緊急対応」「平常時における対応と準備」などが記されており、現在は各部署だけでなく、グループ会社にも展開しています。

2016年4月に発生した熊本地震でもマニュアルの緊急連絡網のとおり連絡があり、現地の状況について把握し、対処することができました(熊本地震の支援についてはP40をご参照ください)。



お客さまの声を反映しながら安全・安心をしっかりと確保し 喜ばれる商品をお届けします

お肉のおいしさと 栄養を食卓へ

さまざまな世帯や生活スタイル 嗜好に応える商品を開発

お肉は必須アミノ酸やビタミンを豊富に含むことから、バランスの良い食事には欠かせません。プリマハムグループは、こうしたお肉の持つ機能をより広めていくために、牛・豚・鶏などの精肉やカットした加工肉、ハム・ソーセージ、ハンバーグなどの加工食品、さらに惣菜、調理パン、デザートなど、さまざまな商品を提供しています。

近年は、高齢化や共働き世帯の増加、個食化などを受け

て、1回で使い切れる量をパックした商品、調理時間を短縮できる商品、さらには、お弁当をよりおいしくする商品や国産原材料を使ったこだわりの商品、お客さまの声をもとに量・味を改良した商品など、さまざまな世帯や生活スタイル、嗜好の変化に応える、おいしく便利で使いやすい商品の開発を進めています。

また、子育てが忙しい、重い荷物が持てないなど、さまざまな理由でお店に行けないお客さま向けにネット販売も行っていきます。

Web プリマハム(株)のオンラインショッピングサイト
<http://www.primaham.co.jp/shop/>

●商品パッケージにもさまざまな工夫を

プリマハムグループは、新商品の発売や商品リニューアルにあわせて商品パッケージの改良をしています。

商品を開封した後に、ふたたびピタッとくっつき保管に便利なパッケージ「フタピタ」も、そのひとつです。「単身なので数回に分けて食べるときに便利」「使うたびにフタができるので家族バラバラの食事にも対応できる」「容器への移し替えがいらす、ゴミも減らせる」などのメリットから、お客さまの好評を得て、採用商品数も増えています。

また、安全性や開けやすさ、わかりやすさなどに配慮したパッケージも次々と開発しています。

**国産豚肉を使った
こだわりの逸品**
THEマスターズ
特選ポークウインナー
国産豚肉の
旨みと
食べ応えのある
食感を
味わってください!

**フライパンで
簡単調理**
絶品点心
シリーズ

**全5種をご用意。
これだけの
品揃えは
プリマハムだけ!**

**ピタッとくっつき
保管に便利な
「フタピタ®」
シリーズに
仲間が増えました
(特許出願中)**

**商品ラインアップを
拡大しています**
厚くて旨い
切り落としベーコン

**料理に
便利**
新鮮!使い切りらくらくお料理
ベーコン スティックタイプ

**角が丸く柔らかい※
ので肌を傷つけない**
※無溶剤型ラミネート
を使用

簡単なおつまみ
おつまみに!
オードブルや
サラダに!

小分けパック化
お弁当にも
便利

若鶏ささみ
冷めても
おいしい!

**点字
ラベル**
業界初の試み!

**あけやすく、
剥がしやすい!**
2ヶ所の
あけ口で
らくらく

**鉄板&オープン
の2段焼き上げ製法で
仕上げました**
The GRILL
ハンバーグ~ステーキしょうゆ~

香薫 あらびきミニステーキ

**鶏ももからあげ
和風しょうゆ仕立て**

新鮮!使い切り ロースハム

※商品のパッケージ・規格などは変更する場合があります。

海外メーカーのおいしい商品を 日本の皆さまにもお届け

アメリカのソーセージメーカー「ジョンソンヴィル社」が持つ高い品質と独自のおいしさを日本の皆さまにも味わっていただくために、プリマハム(株)は2011年からジョンソンヴィル社と提携しています。現在、スーパーマーケットだけでなく、野球場や映画館などでも販売しており、販売開始から売上げも約4倍となりました。

ハム・ソーセージ市場において数少ない海外ブランドの成功例として、今後も積極的に販売チャネルを拡大させていきます。



ジョンソンヴィル社の商品例

“安全・安心・おいしさ”を 一貫生産(インテグレーション)で実現

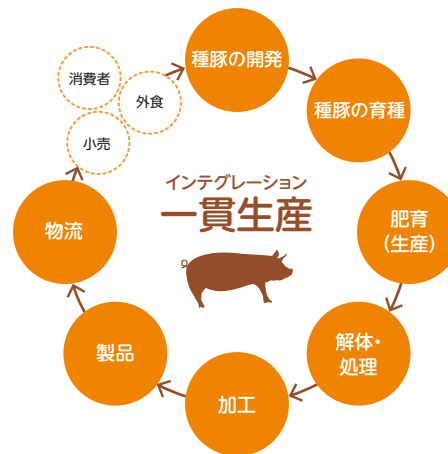
お客さまが求める“安全・安心・おいしさ”を実現するため、プリマハムグループは種豚の開発から育種、肥育、処理、加工、販売までを一貫して行い、国内産オリジナルポークを生み出しています。

特に品種改良では、太平洋ブリーディング(株)が養豚先

進国であるアメリカのSwine Genetics International社、カナダのハイライフ社などと協同して、各牧場に最適な種豚を開発しています。また2015年度は、太平洋ブリーディング(株)内に「獣医師チーム」を発足し、獣医師4名が国内インテグレーションの要である各牧場の豚の病気の診断・予防や防疫対策に取り組み始めました。

そのほか、海外から豚肉を輸入する場合も現地で一貫生産体制が整っていることを確認した相手をパートナー企業としています。

プリマハムグループのインテグレーション



幅広いチャネルで 業務用商品の付加価値向上を推進

プリマハムグループでは、生肉の加工場の全国体制を整備したチルドメーカーとしての強みをいかし、店頭で焼く・揚げるだけでおいしく食べられるようなお肉の加工品

を365日配送で提供しています。従来は店頭調理惣菜に使用される食材は冷凍食品が中心でしたが、より新鮮な食材提供を可能にしたことで惣菜の付加価値向上と調理負荷削減を支えています。



● 業務用カタログ「ふれあいの食彩®」でメニュー提案

プリマハム(株)は、裾野の広い業務用食材での販売拡大を目指し、調理例および調理方法を掲載した業務用の商品カタログを制作して2015年1月から配布しています。ラインアップは、ウインナー、ハム・ベーコンから、ミートデリ、カツ類、唐揚げ、生肉・味つけ肉まで豊富で、レストランのメニュー開発や量販・小売店の惣菜ラインアップの多様化に役立てていただいています。



Topic

エッセンハウスが2年連続で 金賞を受賞!

プリマハムグループの(株)エッセンハウスの商品「和牛日本一☆食べ比べ御膳」が、国内最大級の業務用食品・食材機器の総合見本市「ファベックス2016」で開催された「第7回惣菜・べんとうグランプリ2016プレミア部門」で金賞をいただきました。同社は2年連続でこの賞を受賞しています。

このお弁当は、全国和牛能力共進会の「内閣総理大臣賞」で2連覇中の宮崎牛と長崎和牛を一度に召し上がっていただける高級感溢れる商品です。また、副菜には長崎名物のかまぼこと宮崎名物の日向夏を入れて、長崎・宮崎を味わえる商品としました。



和牛日本一☆食べ比べ御膳

VOICE

全百貨店への展開につなげていきます

2年連続で金賞を受賞できたことをうれしく思うと同時に、これからも金賞受賞に恥じないような商品づくりをしないで責任の重さを感じています。今後、長崎や宮崎だけでなく全百貨店への展開につなげていきたいと思っています。

(株)エッセンハウス
板坂 一也

食品安全への取り組み

フードチェーン全体で 一貫した食品管理体制を構築

プリマハムグループでは、お客さまに安全・安心な商品をお届けするために、食品安全管理システムの国際規格であるISO 22000を取り入れるとともに、食品安全方針のもと商品企画・開発から調達、製造、物流までのフードチェーン全体で一貫した管理体制を構築し、運用しています。

● 品質を段階ごとに徹底管理

商品企画・開発

お客さまのニーズやお取引先様の要望を商品開発に反映させるため、試作を重ねるとともに、工場や検査機関でアレルギー物質や微生物などの安全面を確認・点検。また、商品表示の法令への適合や商品の規格内容に問題がないかを審査・承認します。

調達

調達先様から納入された原材料や商品について、微生物、残留農薬、動物用医薬品、アレルギー物質などの状況と安全性を確認・点検。また、商品の調達先様に当社の品質管理の考え方を理解していただくための説明会を定期的実施するとともに、工場を訪問して独自に作成したチェック表に基づいて品質管理の状況を点検しています。

製造

アレルギー物質や異物混入を防止するため、調味料の計量・混合作業は、使用する調査室や器具を明確に区分し、設備の洗浄と衛生管理についても徹底。また、細菌検査や理化学検査(成分検査など)を実施して品質基準に適合しているかを確認するとともに、でき上がった商品の色合い、味、香り、弾力などを専任者が調理し、実際に食べて確認しています。

アレルギー物質ごとに区分された
調査室

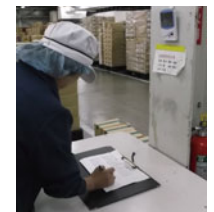
工場内での検査風景

物流

物流センターでの保管、トラックでの輸送、お取引先様への納品までの全物流工程を通じて、温度管理を徹底しています。また、出荷・配送の記録をとって、万一問題が発生した場合にもトレースが確認できる体制を整備しています。



低温管理された物流センター



温度チェック風景

食品安全マネジメントシステムの認証取得状況 (2016年4月現在)

● FSSC 22000

事業所	所在地
北海道工場*	北海道上川郡清水町
三重工場*	三重県伊賀市
鹿児島工場*	鹿児島県いちき串木野市
関西プロセスセンター*	大阪府大阪市
秋田プリマ食品(株)	秋田県由利本荘市
西日本ベストパッカー(株)	鹿児島県いちき串木野市
プリマハムタイランド社	タイ・プラチンプリ県

* プリマハム(株)の事業所

● ISO 22000

事業所	所在地
茨城工場*	茨城県土浦市
本社*	東京都品川区
(株)かみふらの工房	北海道空知郡上富良野町
熊本プリマ(株)	熊本県菊池市
プライムフーズ(株)	群馬県前橋市
プリマ食品(株)	埼玉県比企郡吉見町
四国フーズ(株)	香川県丸亀市
プリマルーケ(株)	長崎県雲仙市
プリマハムフーズタイランド社	タイ・サムットプラカーン県

* プリマハム(株)の事業所

食品安全方針

基本理念

プリマハムは、経営理念「商品と品質はプリマの命」「絶えざる革新でお客様に貢献」を旨とし、すべての従業員がフードチェーンの一員として常に食品安全を優先した『もの作り』を行ないます。

各組織が、自らの責任範囲の食品安全を確保し、各組織を連鎖することでフードチェーン全体の食品安全を確保します。このために、お客様やお取引先とのコミュニケーションを欠かしません。事業活動のあらゆる場面において従業員一人ひとりが、食品安全の意識を高め、食品安全に基づいた美味しい食品を食卓にお届けします。

基本方針

1.法規制順守

- 食品安全法規制及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。

2.コミュニケーション

- フードチェーンの一員として常に食品安全を優先した『もの作り』を行うために、お客さまやお取引先とのコミュニケーションを欠かしません。
- 常に法規制当局とのコミュニケーションを持ちます。
- 食品安全に影響する問題を従業員に周知させます。

3.啓蒙活動

- 食品安全に対する意識向上を図るため、食品製造に従事する従業員に食品安全教育を実施します。

4.継続的適切性のレビュー

- マネジメントレビューを実施し、食品安全方針及び目標の改定を適切に行います。

2段構えの内部監査で 品質を徹底管理

プリマハムグループは、ISO 22000の監査員による監査と、品質保証本部の監査員による監査の2種類の監査を実施し、異なる目線で食品安全管理体制を厳しくチェックしています。

● ISO 22000に基づく内部監査

ISO 22000の認証を取得しているすべての事業所を対象に、要求事項への適合性および有効性を確認し、継続的な改善を図っています。2015年度は、各工場で「重点監査項目」(防虫、不要物など)を設定し、目的をより明確にしました。

なお、内部監査員は各事業所の従業員から選出しており、2016年5月現在、プリマハムグループ全体で112名が監査員の資格を有しています。監査員の育成も従業員に対する食品安全教育の一環と考え、毎年増員しています。

● 品質保証本部による内部監査

プリマハムグループの工場を対象に、食品関連の法令をもとにした自社基準への適合性を確認しています。



内部監査の様子

トレーサビリティシステムを構築

原材料の受け入れから製造、出荷にいたるまでの各種データを記録して、万が一のときも生産履歴(使用原材料、添加物、包装資材など)を追跡できる仕組みを構築し、年2回の演習を実施しています。演習では、各部署に対してある商品の賞味期限を指定し、その商品の生産履歴が正確にトレースできるかどうかを確認しています。

従業員一人ひとりに 食品安全教育を徹底

食品の安全性を確保するためには、従業員一人ひとりが食品安全を意識し、それぞれの作業で自分の職務を遂行することが重要です。プリマハムグループでは、定期的に従業員教育を実施して意識の向上を図るとともに、重要なポイントを理解しやすいように「職務マニュアル」には写真を多く掲載しています。



食品安全教育風景

Topic 海外工場にインスペクターを派遣し、原材料異物の低減に取り組みました

海外から調達している原材料の品質強化に向けて、プリマハム(株)は2015年度に北米の調達先工場にインスペクター(検査員)を派遣。半年間にわたって豚肉の骨などが残ることで発生する異物の低減に取り組みました。

最初は当社グループが求める品質の要求事項について驚いていた調達先様も、次第に検品の結果に興味を持つようになり、最終的には異物除去の大切さをあらためて認識して

いただきました。また、検品は骨の残存がないかどうかを確認し、その結果を前工程へフィードバックし、PDCAを回しました。その結果、骨などの異物は約3分の1に低減できました。

今後は、現地の作業員自身でこうした改善活動を継続できる仕組みをつくっていきます。また、お客さまからの改善要望を伺いながら、ほかの調達先様にも展開していく予定です。

VOICE

今度は長期にわたって参加したいです

最初は言葉が通じず苦労しましたが、脱骨時に骨の削り残しが多いこと、削った骨が付着しているので完全に骨を取り除いてから次工程へ払い出すこと、検品時の原材料処理のスピードが早く、見落としが多いのでコンベアーの速度を遅くすることなどを、調達先の方々にも理解してもらいました。また、原材料を多く流しすぎると見落とす可能性も高まるため、基準の量を決めて処理することが大切だとあらためて感じました。

今回は1ヶ月の渡米でしたが、機会があれば、次は半年や1年の単位で取り組みたいと思っています。



三重工場
製造部
濱口 寛

具体的な写真などを示して説明しました

骨が多く残っていることを現地の方々にも認識してもらうために、製造工程のX線検査装置で骨が混入していた現物写真を提示したり、除去すべき骨の大きさがどの程度のものなのかを示しました。また、検査時に除去した骨の種類と数を連絡し、どのような骨が多く残っているのかも理解していただきました。そうすることで調達先の方も積極的に改善に取り組んでいただけました。

現地工場の方々が温かく迎えてくださったおかげで非常に楽しく仕事ができ、日本国内とは大きく異なる作業環境を体験できたことにとっても感謝しています。



茨城工場
製造部
山岸 理良

食物アレルギーへの対応

調達・開発・製造の各段階で 厳しくチェック

原材料の調達、商品の開発・製造の各段階で、食物アレルギー物質の混入を防止する対策を講じています。また、製造に使った設備は終了後に分解して細かな部分まで洗浄し、独自に開発したアレルギー物質検査キットを用いて、洗い残しがないかを徹底的に確認しています。



設備の洗浄

商品パッケージにもわかりやすく表示

商品パッケージの原材料名欄に食品表示法によって表示が義務づけられている特定原材料7品目と、表示が推奨されている20品目をアレルギー物質として表示しています。また、お客さまが確認しやすいようにパッケージに一覧にしてわかりやすく表示しているほか、当社Webサイトやお客さま相談室でも情報を提供しています。

パッケージ

表面

◆アレルギー物質対象の品目を記載しています。
左記のアレルギー物質を含む原材料を使用しています。



パッケージ 裏面

本製品は食物アレルギーをお持ちの方のために、国が定めたアレルギー物質(特定原材料7品目、特定原材料に準ずる20品目)を記載しています。
下記のアレルギー物質を含む原材料を使用しています。

卵	乳	大豆	豚肉
---	---	----	----

※アレルギー物質の由来は原材料毎に表示しています。

自社開発の検査キットを社外にも販売

プリマハム(株)は、アレルギー物質の混入を検査するために開発したキットをプリマハムグループで使用するだけでなく、「アレルゲンアイ®シリーズ」としてほかの食品メーカーなどに販売しています。このキットには、消費者庁のガイドラインに準拠した「ELISAキット」と、簡易検査用の「イムノクロマトキット」があります。

「アレルゲンアイ®シリーズ」はモノクローナル抗体という特殊な抗体を使用しており、検査精度が高いことが特長です。

● アレルギー物質の含有量を測定するELISAキット 「アレルゲンアイ® ELISA」シリーズ

食品衛生法によって表示が義務づけられている「乳」「卵」「小麦」「そば」「落花生」と、表示が推奨されている「キウイフルーツ」の混入について、食品中にどのくらいの量が含まれているかを検査することができます。

また「乳」「卵」「小麦」「そば」「落花生」の検査キットである「アレルゲンアイ® ELISA II」シリーズは毒物を含まないため保管や廃棄が一般試薬と同じ取り扱いとなり、食品工場などでも安心してご使用いただけます。

いずれのELISAキットも、消費者庁のガイドラインに準拠しています。



アレルゲンアイ® ELISA II シリーズ

● アレルギー物質の有無を特定するイムノクロマトキット 「アレルゲンアイ® イムノクロマト」シリーズ

イムノクロマトキットは、特別な測定機器を必要とせず、誰でも短時間かつ低コストで検査が行えます。表示義務がある「乳」「卵」「小麦」「そば」「落花生」「甲殻類」、表示が推奨されている「キウイフルーツ」の混入の有無を目で見て検査できます。また、2015年6月からは表示が推奨されている「大豆」と「ごま」の検査用イムノクロマトキットも販売しています。

お客さまからは「7大アレルギーのすべてのキットが揃っているので検査しやすい」と評価をいただいています。



アレルゲンアイ® イムノクロマトシリーズ



大豆、ごま用 イムノクロマトキット

Topic

「大豆」と「ごま」のアレルゲン
検査キットを展示会で紹介

プリマハム(株)の基礎研究所は、2015年10月7～9日に東京ビッグサイトで開催された「食品開発展2015」に出展しました。この展示会は、“食品分野の健康と安全”をテーマに分析・計測・衛生資材・製造技術を集めたアジア最大のイベントです。

今回で5回目の出展となる当社は、2015年6月から販売している「大豆」と「ごま」のアレルゲン検査キットを中心に展示。展示会には約39,000名の来場者があり、当社のブースにもアレルゲン検査を検討しているお客さまが数多く来場されました。



VOICE

たいへんご好評をいただきました

当社の展示ブースにおとずれたお客さまは、食品企業の品質管理や品質検査の担当者が多く、アレルゲン検査の関心の高さを感じました。アレルゲン検査キットのサンプル配布も実施し、たいへんご好評をいただきました。今後も、研究開発を通じて食の安全・安心に貢献します。



開発本部
基礎研究所
迫田 紘史

お客さまとの
コミュニケーションお問い合わせやご意見・ご要望を
「お客様相談室」で受け付け

プリマハムグループでは、お客さまからのさまざまなお問い合わせやご意見・ご要望を受け付ける窓口として「お客様相談室」を設置しています。フリーダイヤルのほか、手紙、メールでも受け付けています。

2015年度のお問い合わせ件数は9,703件で、おもな内容としては、賞味期限や安全性、調理方法、キャンペーンなどについてでした。

全国各地でキャンペーンを実施

● 野球観戦とお笑いが楽しめるキャンペーンを実施

プリマハム(株)は、球団創設時から楽天イーグルスのオフィシャルスポンサーとしてともに歩み、震災以降はホームスタジアムに東北応援メッセージを掲げています。

2016年度は、「Koboスタ宮城」の3塁側外周に新しくできた「イーグルスドーム」で吉本興業の人気芸人たちのお笑いを堪能した後、ホームゲームを楽しむことができるという、お笑い野球観戦がセットになったユニークなご招待キャンペーンを実施しています。



2016年に開催される吉本興業とのコラボ企画

● ラグーナテンボスのプールの営業期間に
2015年夏からキャンペーンを開始

ラグーナテンボスはベネチアをモデルとしたマリニリゾートで、名古屋から約1時間、三河湾を望む立地にあります。プリマハム(株)は2015年の夏、パーク内で最も人気のあるプールの営業期間にキャンペーンを実施しました。



ラグーナテンボス

Topic

神宮球場で「ビール半額ナイター」
を実施

2016年度から神宮球場のオフィシャルスポンサーとして、球場内の看板掲出や売店での販売を開始しています。

その一環として、7月13日(水)のヤクルト-阪神戦において「2016神宮球場 ビール半額ナイター supported by プリマハム」を開催しました。当日は、内外野の常設売店や特設売店で「香薫 あらびきポーク」やドライ商品を販売したほか、当社社長の松井が始球式をしました。



バックスクリーンに掲示



当社社長による始球式

東京ディズニーランド®、 東京ディズニーシー®の プライベートパーティーを開催

プリマハム(株)がオフィシャルスポンサーを務める東京ディズニーランド®のレストラン「ザ・ダイヤモンドホースシュー」のプライベートパーティーを毎年実施しています。これは商品をお買い上げいただいたお客さまを抽選でご招待し、お食事やショーを楽しんでいただくというものです。

また、2015年10月には東京ディズニーシー®の貸切イベント「プレシャスナイト」を開催し、11,000名様をご招待しました。夜間を完全貸切にしたイベントはお客さまからも好評で、2016年度は東京ディズニーランド®で開催する予定です。



「ザ・ダイヤモンド
ホースシュー」の
プライベート
パーティー
©Disney/Pixar



東京ディズニーランド®
貸切プレシャスナイト

2016年10月14日(金)
19:30~22:30

©Disney

小売店様・流通事業者様のパートナーとして

小売店様や流通事業者様は、お客さまでもあり、消費者とプリマハムグループをつなぐ大切なパートナーでもあります。そこで、小売店様や流通事業者様のプライベートブランド開発やメニュー開発においては、営業担当が売場に出向き、その地域のお客さまのニーズを伺いながら、お客さまに喜んでいただける商品・品質・サービスづくりに努めています。また、POP提案やわかりやすい商品情報の提供など、売場づくりにも協力しています。

Topic

「スーパーマーケット・トレードショー 2016」に出展

プリマハム(株)は、2016年2月10日から12日にかけて東京ビッグサイトで開催された「スーパーマーケット・トレードショー 2016」に出展しました。この展示会は、食品メーカーや食品関連の卸売業・商社、生産者などが最新の情報を発信する“プロ向けの商談専門展”です。

当社は5年連続の出展となり、今回は商品紹介や商談を増やすためにブースを拡大。香薫を中心とした市販品コーナー、食肉ブランド銘柄を紹介する食肉コーナー、さらにはジョンソンヴィルブランドを紹介するコーナーを設けました。その結果、小売業の皆さまをはじめ、問屋や外食産業の皆さまにも興味を持っていただくことができました。

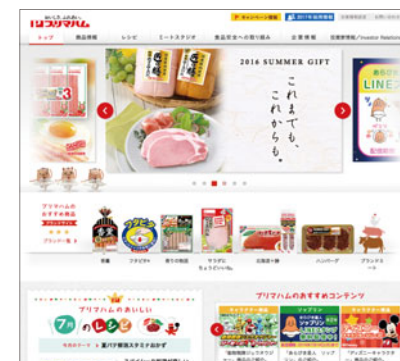


WebサイトやSNSを使った情報発信

プリマハムグループは、自社のWebサイトやLINEなどのSNSを通じて、お客さまに役立つ情報を発信しています。

Webサイト内に設けた「ミートスタジオ®」では、当社の商品を使ったレシピを季節・イベントごとに紹介する「プリマハムのおいしいレシピ」を掲載しています。また、知っていそうで意外と知らないお肉の特長を管理栄養士が紹介する「肉の栄養学」、調理器具の賢い使い方や素材の調理方法などを紹介する「料理の基礎知識」など豊富なコンテンツがあります。ミートスタジオに登録(無料)された方にはお得な情報を掲載したメールマガジンも発行しています。

また、LINEでは商品やレシピ、キャンペーンのほか、クイズやマンガなどを掲載しています。



Webサイト



LINE公式アカウント

Topic

“友だち”が700万に近づく
LINEの公式アカウント

SNSを活用し、当社ファンを広げるために、2015年5月にLINEの公式アカウントを開設しました。発信する情報は、商品やレシピ、キャンペーン情報などから、クイズ、マンガなど、幅広いユーザーに楽しんでもらえる内容になっています。なかでも、ユーザーに人気なのがオリジナルキャラクター「あらびき星人ソップリン」の無料スタンプ※で、2015年5月の開設から現在までで友だち数は700万人に近づいています。

※スタンプには配信期間が設定されていますのでご注意ください。



あらびき星人ソップリン



プリマハムの
LINE ID

VOICE

“プリマファンづくり”に努めています！

現在もLINEの企画を継続していますが、若年層、特に女性をターゲットとした“ファンづくり”ができるように努めています。当社を知っていただくためのアプローチが重要になりますが、何が効果があるかはまだまだ模索中で、当社サイトへのクリック数を検証しながらメッセージやタイムラインでの企画を策定しています。

そんななかで2015年8月24日からスタートしたマンガと、25日の無料スタンプ配布を連日実施したことで予想以上の友だち登録があったことは、今までリーチできなかった層へのファンづくりにもつながったと考えます。獲得した友だちの属性や声をアンケートを通じて把握しながら、より良いコミュニケーションツールを企画していきます。



営業本部 営業統轄部

栗石 健司 (左)

プリマシステム開発(株)

横山 明日香 (左から2番目)

営業本部 営業統轄部

柏原 誠 (右から2番目)

総務・広報部

木内 隆治 (右)

「香薫 あらびきポーク」の
コマーシャルをリニューアル

2011年から放送していた3匹の豚のバレリーナ(香薫バレエ団)が踊る「香薫 あらびきポーク」のコマーシャルを2015年12月にリニューアルしました。

香薫バレエ団とオリジナルのBGMはそのままに、より香薫あらびきポークとパッケージを前面に出し、女の子のシェフが香薫バレエ団といっしょに料理する内容となっています。このコマーシャルによって香薫の認知度は上がっており、好意度や購買喚起度も若年層を中心に高まっています。



「香薫 あらびきポーク」のコマーシャル

商品に関連する情報の開示

プリマハムグループは、商品のリコールなどお客さまに広くお伝えすべき情報は、さまざまな媒体を用いて社会へ公表しています。

また、問題の解決にあたっては、迅速な原因の究明と再発防止を行っています。



迅速かつ正確な情報開示に努め 株主・投資家の皆さまとの対話を充実させています

株主・投資家の皆さまとの コミュニケーション

開示情報を充実するため IRサイトやTDnetを活用

適切な情報開示に向けて、IRサイトでは中期経営計画の紹介やより詳しい決算ハイライトなどを掲載しています。また、株主総会や決算説明会に参加できなかった株主・投資家の皆さまにも事業内容や方針を知っていただくために、報告資料(有価証券報告書、決算短信、年次・中間報告書、ファクトブック、コーポレート・ガバナンス報告書、決算説明会資料など)をPDFで簡単にダウンロードできるようにし、検索性を高めています。

このほか、適時開示規則に該当する情報は東京証券取引所が運営する適時開示情報伝達システム「TDnet」で公開するとともに、すみやかに当社のIRサイトに掲載しています。



ファクトブック



年次報告書



当該期中のTOPICSを報告

機関投資家・アナリストとの 直接対話を重視

プリマハム(株)は、決算説明会を年2回(上半期、期末)開催し、プリマハムグループの事業環境や収益状況、中期経営計画などを社長自らが説明しています。

2016年3月期の期末決算説明会は48名の方に出席いただき、「コーポレートガバナンス・コード」への対応などについても説明しました。

加えて、個別IRミーティングも積極的に開催しており、機関投資家やアナリストの方々との信頼関係の構築に努めています。特に2015年度はお申込みにすべて対応するという方針で70回以上実施し、事業環境や施策、収益の結果分析などについて説明しました。

また、2016年6月には茨城工場の新ウイナープラントが完成しました。現在、10月の完全稼働に向けて既存工場から機械などの移設を進めています。今後は、当社への理解促進と評価向上のために新ウイナープラントの見学会などを計画しています。

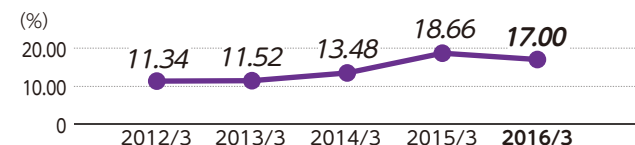


2016年3月期の決算説明会の様子

海外投資家の増加を受けて招集通知などを英訳

プリマハム(株)では、近年の海外投資家の増加を受けて、2016年6月の株主総会から招集通知の英語版を作成し、該当株主の皆さまへ当社Webサイトなどを利用して開示しています。また現在、トップメッセージや会社概要、経営理念、会社沿革、四半期業績、決算説明会資料などの英語化を実施し、当社Webサイトに開示しています。

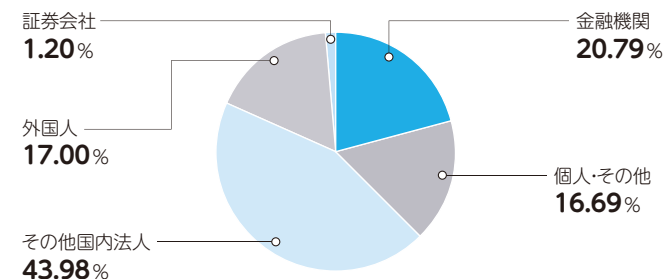
海外投資家比率



配当政策

当社は、自己資本比率目標の早期達成に向けて内部留保を確保しつつ、安定配当を継続的に実施できる企業づくりを目指しています。この方針のもと、2016年3月期の配当は計4円(中間2円、期末2円)とさせていただきます。

所有者別株主分布 (2016年3月31日現在)



注: 上記には、自己株式855千株は含まれておりません。



共存・共栄のための相互信頼をもとに パートナーシップを築いています

プリマハムグループの 調達概要

国内外の各地に調達先を分散

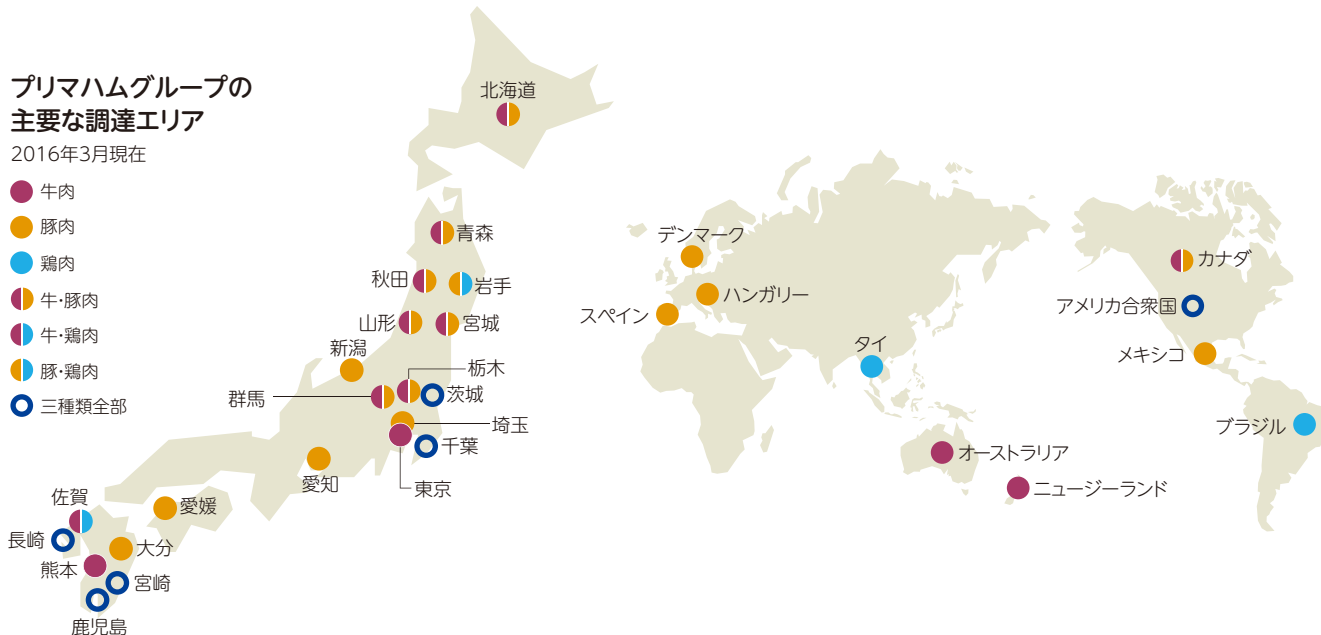
調達先様を複数持つことは、最適な原材料を調達できるだけでなく、災害や家畜伝染病などで原材料の調達が止まってしまうことを避けられるというメリットもあります。

プリマハムグループでは、食肉、ハム・ソーセージ、加工品などの原材料を世界各地から調達しています。近年は特にお客さまから国産原材料へのニーズが高まっているため、プリマハムグループの長所を最大限にいかし、北海道、東北、関東、四国、九州など日本全国から上質な原材料を仕入れています。

プリマハムグループの 主要な調達エリア

2016年3月現在

- 牛肉
- 豚肉
- 鶏肉
- 牛・豚肉
- 牛・鶏肉
- 豚・鶏肉
- 三種類全部



外国産原材料については、豚肉はカナダ、アメリカ、メキシコ、ヨーロッパ産を中心に輸入しているほか、2015年からスペイン産の豚肉の輸入を開始しました。また、牛肉は、アメリカ、オーストラリア産などを中心に、鶏肉はタイ産の鶏肉の輸入が解禁されたため、ブラジルとタイから輸入しています。

明確な生産体制を持ったパートナーと ニーズにそったお肉を生産

プリマハムグループは、生産から販売まで一貫した体制を構築することを目指しています。国内の豚肉については、育種生産から肥育、処理、加工、販売までをグループ内で一貫して行うことにより、トータルインテグレーションを

実現しています。

海外からの輸入品については明確な生産体制を持ったサプライヤーをパートナーに選び、定期的な生産チェックや調達先様とのミーティングなどを実施しています。これによって調達先様と商品のコンセプトや飼料の配合などを提案しあえる密な連携が可能となり、現在、世界各地で豚肉や牛肉のオリジナルブランドを共同開発しています。

また、より新鮮なお肉をお客さまにお届けするために、航海日数が2週間以内の北米、オーストラリアから国産品と同じチルド(低温冷蔵)品での輸入を実現しています。

こうした取り組みは日本のお客さまからも喜ばれており、今後もさまざまなニーズにそったお肉を開発・生産していきます。

輸入オリジナルブランド



「サーティファイド
プレミアムビーフ」
ナショナルビーフ社の
登録商標です。



「味い葡萄牛®」



「サザングレイン
ビーフ®」



「大平原健やか
ポーク®」



「ハーブ三元豚」



「米どり」

飼料にこだわった ブランド肉を共同開発



麦を配合した飼料で あっさりした味わいに



あっさりとした味のなかに「こく」があるアメリカ産の豚肉。麦を配合したオリジナル飼料で育てることで、脂肪に硬質感が得られ肉の締まりが良いのが特長です。



オレガノを添加した飼料で 香りも肉質も抜群



ハーブのオレガノを添加したオリジナル飼料で育てたオーストラリア産の牛肉。一般的なオーストラリア産牛肉より長い120日間をかけて穀物肥育した高品質牛肉です。



米を配合した飼料で うま味、コク味、甘味に自信



米を配合したオリジナル飼料で育てたタイ産の鶏肉。やわらかく臭みがない肉質であることも特長ですが、最大の魅力は、うま味、コク味、甘味が三拍子揃った味の良さです。

Topic

オーストラリア産の牛肉を 中国・タイへ供給開始

プリマハム(株)は、オーストラリア産の牛肉を海外市場にも供給し始めています。

すでに、中国の日系小売店にはオーストラリア産牛肉を販売していますが、タイの外食企業や食品加工会社にも同国産の牛肉を販売する予定です。また、精肉店や日系小売店に対しては、トレイパック商品やタイすき鍋などのプロセス加工商品を供給する予定です。

なお、バンコク市内の小売店や外食企業に対しては、2015年から日本産の牛肉を販売しています。

調達先様との コミュニケーション

お互いに見学することで 信頼関係を強化

プリマハムグループでは、販売の状況をより知っていただくために、国内の調達先様に対して店舗などの販売先に同行いただいています。また、販売先様にも調達先様を見学する機会を設け、調達先様の状況を知っていただくようにしています。

海外においては、米国に駐在員を置いて、北米地域の情報収集や調達先様工場の生産チェック、調達先様とのミーティングなどを定期的実施しています。

こうした活動を通じて、今後も調達先様との信頼関係を強化し、互いの発展を目指していきます。

お取引先様に 品質管理の徹底をお願い

お取引先様にも当社の品質管理の考え方をご理解いただくため、年1回、お取引先様を対象とした「取引先様説明会」を実施しています。

2015年度は、「食品表示基準」の概要を説明したほか、外部講師を招いて「HACCPの導入の義務化」について行政の状況などを講義していただきました。

また、品質管理の状況についてお取引先様の国内および海外の工場を年1回、実査しています。対象となる工場には事前に自主点検をしていただいております。そのご回答に基づいて品質管理部門が工場を点検し、より品質管理のレベルが向上するように改善を推進しています。2015年度は既存のお取引先様45工場(国内32、海外13)と、新規のお取引先様7工場(国内2、海外5)で実査しました。いずれの工場でもおもに製造現場での管理状態や記録内容を点検し、重大な問題が生じないような管理ができていたことを確認しました。



2015年度に開催した
「取引先様説明会」

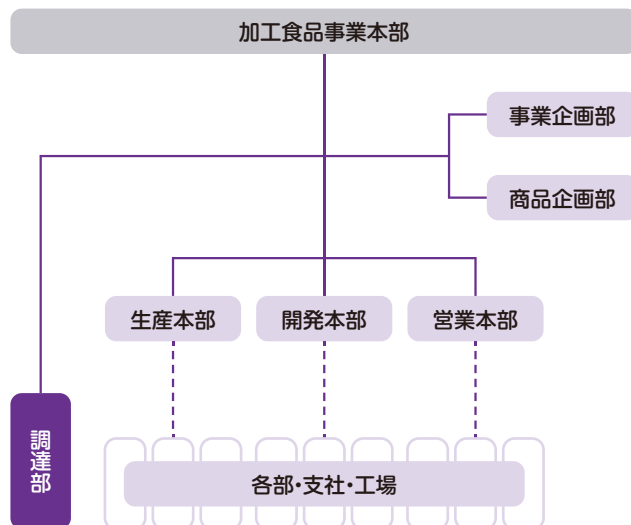
加工食品にかかわる すべての調達機能を集約

これまで加工食品の調達機能は、それぞれ食肉事業本部、生産本部、物流部に点在しており、部署同士の連携が課題となっていました。そこで、加工食品にかかわるすべての調達機能を集約するため、2016年4月、加工食品事業本部に「調達部」を新設しました。

同部署は、原料課、補材・資材課、社外仕入課の3課から構成されており、原材料から最終製品までの円滑な情報共有や一貫した管理を実現しています。

今後、プリマハムグループの調達機能のさらなる効率化と業務の高付加価値化を目指していきます。

調達部の位置づけ



VOICE



調達部 原料課
上畑 優希

より良い原材料を調達していきます

伊藤忠商事(株)の畜産部畜産第一課から調達部原料課に出向しています。これまでは輸入者の立場として、おもに北米・ヨーロッパの海外サプライヤーから豚肉原材料を調達・輸入する業務に携わっていました。今後は最終製品に一步近づいた立場で、当地側の現状と現地の実情を結びつけ、より良い原材料を調達し、微力ながら貢献できたらと思っています。



調達部 原料課
土井 遼太

品質にバラツキのない原材料を調達します!

2015年度は、ハム・ソーセージの本場のドイツで約10ヶ月間の研修を経験して、原材料の選定から最終製品までの各工程を幅広く学びました。ドイツで使用していた原材料は常に新鮮で、処理方法も骨が混入しない工夫などをしており、品質にバラツキのないものを使用していました。

調達部に求められている役割は、仕入れ・発注・在庫管理だけでなく、より品質の良い原材料を選定し、安定的に供給することだと思います。研修から学んだことをいかして原材料調達を充実させたいと思います。



調達部 補材・資材課
木下 恵見

開けやすいパッケージなどをお客さまに提案しています

商品には欠かせないフィルムやラベルなど包装資材を調達しています。また、安全・安心な商品を提供できるようにパッケージを設計して調達するだけでなく、他部署と連携しながら開けやすいパッケージや環境に優しい資材などを提案し、お客さまの生活に貢献できるよう努めています。

これからもお客さまに喜んでいただける商品をお届けできるよう取り組んでいきます。



一人ひとりの多彩な能力を伸ばしながら 全員がいきいきと働ける職場づくりに取り組んでいます

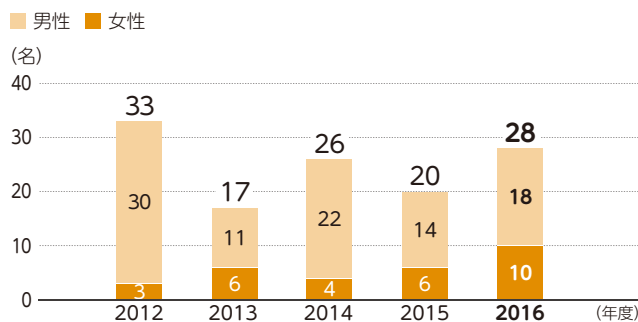
雇用に対する考え方

少数精鋭を基本に人材を確保・育成

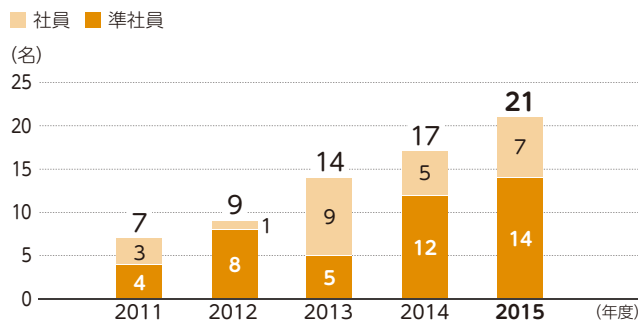
プリマハム(株)は、近年は継続して新規採用を実施し、少数精鋭を基本に「プロ意識を持って入社できる人」「会社とパートナーシップをとってがんばれる人」「何ごとにもチャレンジできる人」を求めています。

その一環として、パートタイム従業員を対象にした「社員・準社員登用制度」を設けています。これは試験・面接な

新規採用社員数の推移



社員・準社員登用者数の推移



どを通じて、希望者が必要な能力を備えているかなどを確認し、社員または準社員*として登用するものです。

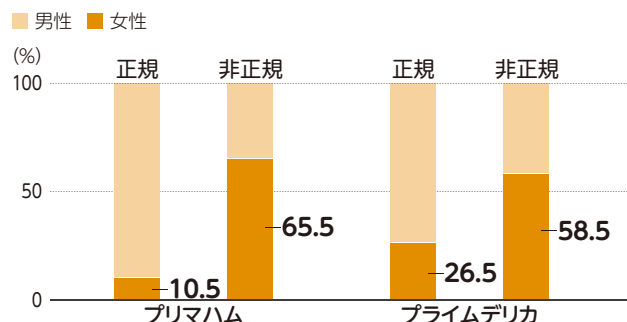
*準社員:勤務地を限定し、原則転動がない正規従業員

多様性のある職場づくり

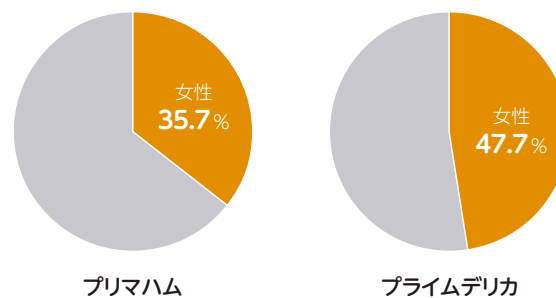
女性従業員の活躍の場を拡大

プリマハムグループでは、女性従業員が商品の企画・開発や営業、品質管理、研究など、さまざまな分野で活躍し

全従業員における女性の割合(2015年度)



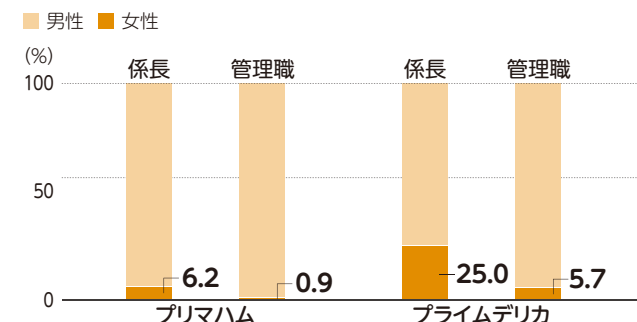
新卒従業員における女性の割合(2016年4月定期入社実績)



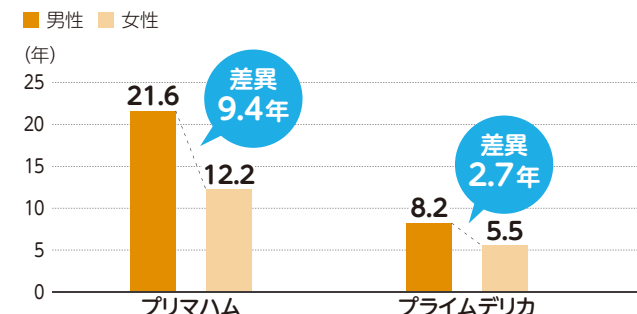
ています。女性は母親や妻など複数の視点を持っており、その発想は食品メーカーのものづくりにとって貴重な財産であるため、今後さらに活躍の場が広がるよう管理・監督者の育成・登用を進めていきます。

プリマハム(株)は、昇進・昇格のための社内試験を制度化しており、2016年4月1日現在、女性の課長3名、次期管理職を目指す係長15名が活躍しています。また、プライムデリカ(株)では女性の部長2名、課長5名、現場のリーダーである監督者34名が活躍しています。

係長・管理職に占める女性従業員の割合(2016年4月現在)



社員の男女の平均勤続年数の差異(2016年4月現在)



●「女性活躍推進法」への対応

2015年8月、職場における女性従業員の活躍を推進する「女性活躍推進法」が成立したことを受けて、該当(※従業員が301名以上)するプリマハム(株)、プライムデリカ(株)について、以下の目標を策定しました。

女性活躍に向けた行動計画

プリマハム(株)

- 2020年3月31日までに社員における男女別平均勤続年数の差を7年以下にする
- 2020年3月31日までに管理職に占める女性比率を2%、係長に占める女性比率を8%とする

プライムデリカ(株)

- 育児に関する処遇改善
- 限定社員制度(短時間)新設
- 退職者復職制度新設

VOICE

女性が活躍できる環境が整ってきました!

私自身も経験しましたが、「家庭・育児」と「仕事」の両立は難しく、家族の理解、協力が必要なほか、何より会社の理解が大切だと感じます。

近年、当社もその環境、制度が整ってきており、とてもうれしく思っています。今、まさに女性にとってキャリアアップできるチャンスです。これからも女性が活躍できる職場をつくっていくようにがんばっていきます。



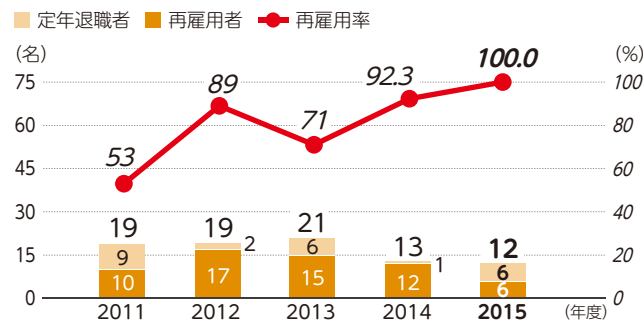
プライムデリカ(株)
佐賀工場 総務課
森田 佳子

再雇用制度を導入して 60歳以上の雇用を確保

プリマハム(株)は、改正高年齢者雇用安定法が施行される以前の2001年度から定年退職者の再雇用制度を導入しており、心身ともに健康で会社規定上問題がない場合は、65歳まで働くことができます。現在も、さまざまな場面で高い技術力や経験を持つベテラン従業員が活躍しています。また、厚生年金の受給開始年齢が65歳まで段階的に引き上げられていることを受けて、従業員の再雇用後の賃金水準の改善も実施しています。

さらに、再雇用制度を従業員にしっかり理解してもらうために55歳時点で全社員・準社員に再雇用に関する面接を実施し、再雇用制度についての説明や再雇用の希望の有無を確認しているほか、定年退職6ヶ月前にも再度面接を行っています。また、全パートタイム従業員には、定年退職3ヶ月前に面接を行い、再雇用制度の説明と再雇用の希望の有無の確認を行っています。

再雇用制度利用者の推移



※ 人数は社員一般職の人数

現地採用を促進するとともに 現地従業員の人材育成を強化

プリマハムグループは、海外拠点において現地人材を積極的に採用するとともに、現地の経済発展を担える「人づくり」に取り組んでいます。

例えば、プリマハムタイランド社の主要な現地従業員を日本のプリマ食品(株)に招いて研修を実施し、その後、研修に参加した従業員たちは製造部門の管理職として活躍しています。また、「外国人技能実習制度」のもとにプリマハム(株)の茨城工場と三重工場で受け入れた中国人実習生のうち数名を中国の康普(蘇州)食品有限公司で採用しています。



中国人実習生の研修の様子

● タイのグループ会社では“現地化”を推進

プリマハムグループは、海外拠点の“現地化”にも取り組んでいます。

特に、タイでは日本人スタッフ4名以外は全員現地従業員（プリマハムタイランド社は100%タイ人、プリマハムフーズタイランド社はタイ人を62%、近隣国出身者を32%）を採用しています。



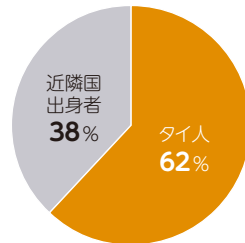
プリマハムタイランド社の従業員

タイのグループ会社の現地従業員（2016年3月末現在）

プリマハムタイランド社



プリマハムフーズタイランド社

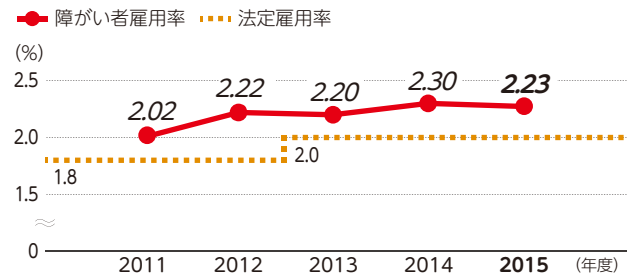


グループでの障がい者の 雇用拡大を推進

プリマハム(株)は、重度障がい者多数雇用事業所として1995年4月に長崎県、雲仙市などの出資のもとに「特例子会社プリマルーケ株式会社」を設立しました。

プリマハム(株)（プリマルーケ(株)を含む）の2015年度における障がい者雇用率は2.23%となっており、今後もプリマルーケ(株)を中心に積極的に障がい者従業員を雇用していきます。

障がい者雇用率の推移



ノーマライゼーションの実践

プリマルーケ(株)は、2016年4月1日現在、18名（うち身体2名、知的16名、重度9名）の障がい者を雇用し、製造などを行っています。

同社では、各種障がいの特性を考慮し、職場におけるサポート方法を学んだ「第2号職場適応援助者」や「障害者職業生活相談員」が職場ごとに配置されており、障がい者と健常者の架け橋となって働きやすい職場づくりを推進して

います。

職場適性と能力開発では、「潜在能力を最大限に引き出せる職場配置」「周囲とのコミュニケーションが円滑にできるような職場配置」「自主的に報告・連絡・相談が行えるような指示系統および相談体制づくり」に留意しています。また、障がい者と健常者がペアを組んだ教育訓練を実施しているほか、各部屋の床はフラットにし、通路や階段には手すりを設置するなどハード面にも配慮しています。

さらに、仕事をするうえでのさまざまな問題は、外部の支援団体とケース会議を開催して、その抽出や今後の指導方法などを協議しています。

2015年度は、安全衛生委員会に障がい者も委員として出席し、作業環境改善などの意見を反映するようにしました。また、ハラスメントアンケートも実施し、必要に応じ面談の機会を設けて未然防止などに取り組みました。



障がい者と健常者がペアを組んで教育訓練を実施

人材の育成

体系的な人材育成プログラムを構築

プリマハム(株)では、「次世代人材育成プログラム」を構築し、採用時から階層別に必要な研修を実施しており、一人ひとりが職階に応じた業務遂行力を養い、管理能力を伸ばしています。

2015年度は、階層別研修では前年の受講者らの声をもとに、より必要なスキルまたは不足しているスキルを体得してもらえるよう、外部の講師の方の意見も参考に内容を加除しました。

そのほかにも、業務に即した専門スキルの習得を図るた

めに各種の「スキルアップ・プログラム」を設けているほか、「資格取得・自己啓発支援プログラム」では、業務に密接に関連する専門的なスキルの習得を目指し、各種資格取得や通信教育講座の受講を推奨しています。公的資格の取得者には報奨金を、指定通信教育講座修了者には受講料の一部を支給しており、従業員の自己啓発・スキルアップのモチベーション向上につなげています。

● 管理者としての思考能力を高める 「ロジカルシンキング」講座

筋道を立てて結論に導いていく能力を高めるため、プリマハム(株)では管理職の研修に新たに「ロジカルシンキング講座」を追加しました。この講座は、管理者として論理的

に考え、書き、話すためのポイントを把握し、職場での実践につなげるというものです。受講者は「考える」「書く」「話す」の3要素を講義や個人ワーク、グループワークを通じて体系的に理解・実践していきます。2015年度は、将来の主管者候補23名の管理職が受講しました。

● ビジネス基礎研修で若手社員を育成

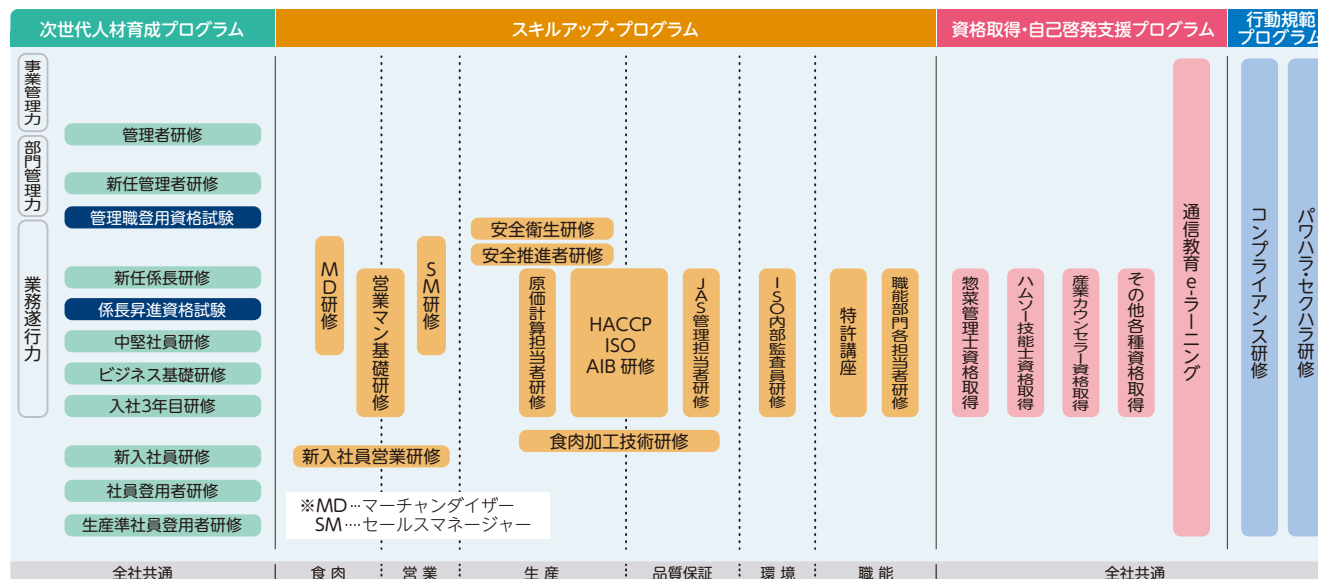
入社3～5年目の従業員を対象とした「ビジネス基礎研修」は、若手従業員にあらためてビジネススキルを身につけ、自分で考え、工夫して、行動する経営マインドを持ってもらうことを目標としています。そのため、グループディスカッションで決められたテーマについて話し合い、グループ内で出た結論を発表するという形式を採用しています。

2015年度は、8～10月の間に4回(計8日間)開催し、20名が参加。今年度は、前年度に受講生から要望があった後輩との接し方(「コーチング」)に関する講義も追加しました。

ビジネス基礎研修講座

- 第1回目 ロジカルシンキング問題解決
- 第2回目 コミュニケーション
- 第3回目 コーチング+財務知識
- 第4回目 企画力プレゼンテーション

研修体系図



● 幅広い知識を身につけるために 「お肉検定」「惣菜管理士」の資格取得を推奨

プリマハム(株)は、ハムなどの製造について正確な知識と技術を有した国家資格「ハム・ソーセージ・ベーコン製造技能士」を製造部門はもとより、営業部門でも取得することを奨励しています。2015年度は、営業担当を対象に資格試験に向けた実習を開催。15名が参加し、その結果8名が資格を取得しました。全社では24名が受検し11名が合格しています。

また、食肉に関するより幅広い知識を身につけるための「お肉検定」や、惣菜だけでなく食品に関する基礎から専門知識までを総合的に修得する「惣菜管理士」の資格取得も奨励しています。

公的資格取得者一覧

資格名称	等級	資格取得者
ハム・ソーセージ・ベーコン 製造技能士	1級	144名
	2級	93名
	合計	237名
お肉検定	1級	281名
	2級	7名
	合計	288名
惣菜管理士	1級	33名
	2級	67名
	3級	92名
	合計	192名

Topic

スーパーなどでの実演販売を通じて お客さまの“声”を収集

(プリマハムタイランド社)

プリマハムタイランド社では、お客さまの声や他社の商品情報を収集し、商品づくりに反映するため、製造部門や開発部門、品質管理部門のメンバーがスーパーなどでの実演販売を実施しています。タイのお客さまからは「いつも品質が安定していて、おいしい」という声が聞かれたほか、タイの商品はポリウムパックが主流のため「プリマハムの商品は、使いきりサイズで手頃な価格なのがうれしい」という声をいただいています。

実演販売を体験した従業員からは「いつかプリマハムの直営店を開設して、お客さまとダイレクトに情報確認できる場をつくりたい」「レストランも併設して、プリマハムの商品をおいしく召し上がっていただける調理方法を紹介したい」という感想が寄せられました。

従業員のモチベーションアップにもつながるため、今後も、このような機会を積極的につくっていきます。



実演販売の様子

管理体制強化のために 主要部門の管理者が研修受講

(プリマハムフーズタイランド社)

プリマハムフーズタイランド社は管理体制の強化のためにプリマハムタイランド社で計画的に研修を実施。経理、人事・総務、品管、製造部門の管理者に研修を受講してもらっています。また、語学力向上のために英語研修も実施しています。

2015年度は、4月18日から10日間、英語研修が開催され20名が参加しました。この英語教室では、あいさつや自己紹介、電話での約束の取りつけや延期などを学びました。受講した従業員からは「業務上で使える単語や文章を勉強できたことがうれしかった」「今後、業務で使う英語については正しい表現を使うようにしたい」「さらに多くの文法を学びたい」という声が寄せられました。



外部講師を招いての英語研修

「今までなかったものづくり」の 実現に向けて開発要員を養成

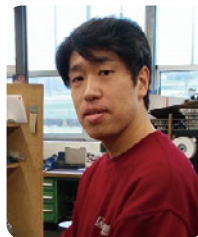
開発本部では、「今までにないものをつくる」ことを目的に5つのテーマ「生肉の追求」「革新的ものづくり」「おいしさ・楽しさの具現化」「安全・安心」「簡便性・利便性の追求」を研究しています。

2015年度は、原材料や設備などを扱うメーカーの研究者を外部講師として招いて勉強会を実施したほか、そのメーカーの工場や研究所を訪問しました。また、国内外の学会への出席や産官学連携での共同研究、異業種を含めた各種展示会、工場視察、セミナー参加など積極的に活動しています。さらに、海外出張でも自力で交渉や情報収集ができるように英会話教室も開催しています。

VOICE

ストレスフリーの考え方を学びました

ドイツ機械メーカーで1年間単身で研修をしてきました。印象に残ったのは「力を入れすぎない、慌てない、無理をしない」というストレスフリーの考え方が共通の認識となっていることです。これが安全かつ個々人のパフォーマンスを最大限に発揮するための非常に合理的な考え方であることを学びました。また、主食といっても過言ではない食肉加工製品の種類の多さにあらためて驚きましたし、どんな小さな村にも必ず大通りにある肉屋を見て、その存在の大きさを知ることができました。



開発本部
生産技術開発部
上田 晃

働きがいのある環境づくり

高い専門性を発揮し 実績を残した従業員を表彰

プリマハム(株)では、高い専門性を発揮し、実績を残した従業員を表彰しています。2015年度から新たに業績向上に貢献した従業員や団体(会社、部署など)を対象とした社長表彰、本部長表彰を実施しました。



社長賞を3つの部署が獲得(写真は、表彰式に集まった各部署の代表)



デンマークポークアカデミー研修に参加した従業員と講師の方々

また、営業・生産部門では、成績優秀者を対象とした海外研修を行っています。2015年度は営業部門の19名がオーストラリアで調達先の工場や市場などを視察したほか、ものづくり部とフードサービス事業部の従業員1名ずつがデンマークの豚肉産産を学ぶ「デンマークポークアカデミー研修」に参加しました。

VOICE

多文化主義の国ならではの食文化を学び 高い食肉加工技術に感動しました

海外研修でオーストラリアを訪れました。同国でナンバーワンのビーフジャーキー工房では、噛めば噛むほどに濃厚な旨味が広がるジャーキーに感動しました。また、食肉加工技術の発展地はヨーロッパといわれているなかで、決して劣ることのない高い技術力も目のあたりにしました。

さらに現地のスーパーマーケットでは、移民を誘致した国だからこそ世界中の食材が所狭しと並び、さまざまな食文化が融合していました。こうした広く世界の文化を取り入れる開放的な国である一方、技術革新を図って独自の文化も築いている姿に固定概念にとらわれない積極性を感じました。

この研修で得られた視点はたいへん貴重な経験となりました。このような経験ができたことに感謝を忘れず、今後の仕事へとつなげていきたいと思います。



フードサービス事業部
野本 千亜希

公正な人事評価のために 「評定者会議」を開催

プリマハム(株)は、公正な人事評価のために管理職以上が参加する「評定者会議」を事業所ごとに開催し、複数の視点で従業員の評価を議論・決定しています。また、この結果を毎年1回かならず従業員にフィードバックし、現状の弱みと強み、今後の課題と目標などのすりあわせを行い、キャリア・スキルアップにつなげています。

今後は、従業員のキャリア・スキルアップに確実につながるように評価者のレベルアップ研修などを検討しています。

管理職候補と係長候補を対象に 社内試験制度を実施

プリマハム(株)は、適切に昇進・昇格が行われるように管理職候補と係長候補を対象に社内試験制度を年1回実施しています。

「管理職登用資格試験」は、筆記試験や論文試験、管理職に必要な能力を客観的に評価するアセスメント試験、主管本部の本部長クラスによる面接を実施し、管理職としての資質を複数の視点で評価しています。またアセスメント試験では、不足している部分を通信教育などによって補うこととしています。

「係長昇進資格試験」は、筆記試験や論文、人事部による面接試験によって可否を決定しています。

公的資格の取得者に 「資格取得報奨金」を支給

プリマハム(株)は、従業員の自己啓発を推奨するために公的資格の取得者に報奨金を支給する制度や、指定通信教育講座の修了者へ受講料の一部を補助する制度を導入しています。

報奨金の支給対象となる公的資格は、社会的に求められる資格の変化にあわせて定期的に見直しをしています。また、業務上の発明で特許を取得した従業員の成果に対しても、報奨金を支給する制度を導入しています。

2016年度からは、ビジネス実務法務検定(1級～3級)を報奨金の対象資格に追加しています。

退職金制度として 「企業型確定拠出年金」を導入

プリマハム(株)では、2014年度に退職金制度として「企業型確定拠出年金」を導入し、退職金水準を引き上げました。確定拠出型企業年金とは、会社が拠出した掛金を従業員の判断で運用し、その結果次第で将来受け取る金額が変動するというものです。導入にあたっては制度の理解を深めていただくため、対象者全員に説明会を実施しました。

今後は確定拠出型企業年金だけでなく、セカンドライフに向けた準備を支援する研修も検討していきます。

働きやすい職場環境づくり

出産・育児や介護と仕事の両立を支援

出産や子育て、介護などの事情を抱える従業員を支援するために、プリマハム(株)では法定基準を上回るさまざまな支援制度を導入しており、2009年11月には「次世代育成マーク(愛称:くるみんマーク)」も取得しました。従業員一人ひとりが能力を発揮しやすい職場環境をつくっています。



くるみんマーク

主な育児・介護支援制度

制度	内容	2015年度の利用者
育児休業制度	満2歳まで	9名
育児にかかわる短時間勤務制度	小学校3年生まで1日2時間以内	9名
育児時間制度	3歳未満まで1日2時間以内 (1時間までは通常勤務したものとする)	7名
介護休業制度	1年以内	0名
介護にかかわる短時間勤務制度	1日2時間以内 (1年以内)	0名

Topic

従業員の“働きやすい環境”を追求

(プリマハムタイランド社/
プリマハムフーズタイランド社)

プリマハムタイランド社とプリマハムフーズタイランド社は、従業員用の社宅はもちろん、送迎専用車を用意して通勤時の負担を減らしています。また、プリマハムのロゴが入った業務用ポロシャツや、残業時には食事事も提供しているほか、2015年度からは会社負担による医療保険加入も開始しています。

「おそろいのユニフォームを着られてうれしい」「残業のときの食事がおいしい」「家族と仕事をしているようで働きやすい」と従業員からも好評です。



おそろいのポロシャツを着て送迎車を降りる従業員たち



残業時には食事を提供

有休取得率の向上を目指して
年間4日間の計画有休を設定

プリマハム(株)は、有給休暇の取得率の向上を目指して2005年から社員・準社員を対象に「計画有休制度」を導入しています。この制度では、従業員が有給休暇を取得しやすい環境をつくるために、年度当初に有給休暇日を計画し、その計画に基づいて取得することで取得率の向上につなげています。

2015年度からは計画有休日数を3日間から4日間に増やすとともに、制度の対象者をパートタイム従業員や再雇用者まで拡大した結果、2015年度の計画有休取得率は95.2%となりました。2016年度以降も計画有休を4日間とし、取得率向上を目指しています。

労働安全衛生の確保

労働災害防止に向けた
マネジメントシステムを構築

プリマハムグループでは、グループ各社で安全管理体制を整えるとともに、労働災害ゼロを目指して2013年度に策定した「安全衛生中期実施計画」に基づき、グループ一体となって安全活動に取り組んでいます。

2015年度も中期実施計画に基づき、外部コンサルタントによる安全巡回指導や集合研修、全国安全週間(7月)、全国労働衛生週間(10月)、プリマハム安全衛生週間(12月)などを実施しました。その結果、重大災害はなく、労働災害も減少しましたが、移動・運搬時の転倒などは依然と

して災害割合が多いことから、今後はヒューマンエラー対策に向けた活動を強化していきます。

● 生産部門のリーダーが集まって
「安全衛生研修」を実施

プリマハム(株)の4工場と国内グループ会社の生産部門からリーダーが集まり、年1回「安全衛生研修」を開催しています。この研修は、職場内での“危険の芽”が常に存在することを再確認し、安全・安心のための危険予知訓練を学ぶためのもので、外部講師による講義をはじめ、グループごとのディスカッションや演習などを行っています。

また、2015年度からはKYT(危険予知訓練)研修と併せて「安全管理者選任時講習」を開催しました。この講習では、労働安全の基本からリスクアセスメントの実践方法、具体的な安全教育の実施方法、関連法令の内容などを学びました。今後も継続して実施していく予定です。



安全衛生研修の様子

VOICE

日々のリーダーミーティングでも 安全性向上について積極的に話し合います

講習を受けて、不安全な行為や不安全な箇所を是正するためには、3M(ムダ、ムラ、ムリ)を削減することが大切なのだと気づかされました。また、労働災害の低減のみならず、生産効率や品質の向上にもつながってきます。

私が所属する鹿児島工場製造課では日々行われるリーダーミーティングで、各工程の生産性の向上や工程改善に向けたアイデアなど、さまざまな意見交換が行われています。こうした場で安全性向上に向けた発言を積極的に行い、職場の安全文化構築に貢献したいと思います。



鹿児島工場 製造課
 郊都木 優

Topic

朝礼時の「Safety Talk活動」を 軸に工程ごとの安全活動を強化

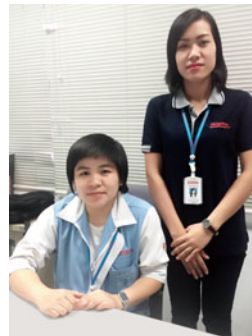
(プリマハムタイランド社)

プリマハムタイランド社は、2010年6月に労働安全の専任部署を設置しました。現在、2名の専任者を配置し、安全活動や安全教育に注力しています。

日々の活動としては、朝礼で工程ごとに危険箇所や注意点などを確認する「Safety Talk活動」を実施しているほか、現場を巡回して危険作業や危険箇所をチェックして労災発生防止に努めています。



Safety Talk活動の様子



労働安全専任部署のOil(オイル)とNamwan(ナムワン)「労働安全はすべての部署にかかわることですので、すべての部署、すべての従業員をサポートするのが役目と捉えています」

心身の健康に配慮した 制度・体制を整備

プリマハム健康保険組合では、人間ドック受診、被扶養者の健診受診の費用を補助するとともに、従業員(加入者)向けの広報誌や被扶養者となっている配偶者向けの冊子を配布し、健康増進・健康維持を支援しています。

また、プリマハム(株)ではメンタルヘルスケアの強化にも取り組み、産業カウンセラーの有資格者を全国の各事業所に配置し、不安やストレスによる健康問題の予防および早期発見、早期対応に努めています。さらに、外部の専門会社と連携した各種ホットライン、相談窓口を設置し、迅速かつ組織的な対応ができる体制を整えています。グループ共通の施策としては、メンタルヘルスの相談窓口を社内外に設置しているほか、プリマ・マネジメント・サービス(株)によるハラスメント研修を各社で実施しています。

● 「ストレスチェック制度」への対応

2015年12月1日に労働安全衛生法に基づく「ストレスチェック制度」が施行されました。これを受けて、プリマハム(株)は各事業所の産業医やEAPサービスを提供するヒューマン・フロンティア(株)と連携し、毎年「ストレスチェック」を実施します。法令では50名以上の事業所が対象ですが、50名未満の事業所も含めて対応します。また、ストレスチェックの後、高ストレス者は産業医などが面談し、メンタル不調の早期発見、早期解決に結びつけます。

さらに、グループ会社についても、プリマハム(株)と同様、50名未満の事業所も含めて、全グループ会社でストレスチェックに取り組みます。

● 産業カウンセラーの有資格者を全国に配置

プリマハム(株)の人事部門に在籍する社員(おもに管理職および係長)は、「産業カウンセラー」の資格を取得することを方針として掲げ、推進しています。これは資格取得で得た知識をいかして、不安や悩みを抱えている従業員を早期に発見するためです。

2016年3月末現在、全国の各事業所で22名の産業カウンセラーの有資格者がいます。各カウンセラーは、従業員の相談にあたっているほか、体調不良などの理由で休職した従業員が復職する際には、各事業所の産業医とともに面談などを実施し、復職に向けた支援を実施しています。

● 「データヘルス計画」を策定

プリマハム健康保険組合は、「データヘルス計画」(2015～2017年度)をもとに、従業員の健康増進を支援しています。また、精密検査や再検査が必要と診断された従業員は、検査後、健康保険組合から送られた受診勧奨通知の報告欄に結果内容の該当項目と受診日および受診機関名を記入し、各事業所人事・総務責任者の捺印後、健康保険組合へ報告書を返送することによってチェックしています。

2015年度は、健康診断結果をもとに生活習慣病へのリスクを階層化しました。その結果、40歳以上の男性の約半数がメタボリックシンドロームであり、さらに「レベル4(重症)」と位置づけられることがわかりました。そのため、今後は受診を勧めるだけでなく、個別指導も実施します。

また、糖尿病患者への健康指導や65歳以上の被扶養者への保健指導などにも取り組むとともに、面談を通じて被扶養者健診の受診率向上も支援していきます。

人権の尊重

「人権の尊重」と「公正な職場づくり」を行動規範に明記

プリマハムグループは、行動規範のなかで「性別、国籍、年齢、民族、人種、宗教、信条、身体的障がいを根拠とした不当な差別、いやがらせ、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントを根絶し、処遇においては個人の適性、能力を尊重し公平な取り扱いがなされるように努める」ことを明記しています。

また、人権問題に関するガイドラインやマネジメント体制などは「社員就業規則」に記されています。

● 専門部署を設置してハラスメントを防止

プリマ・マネジメント・サービス(株)(以下、PMS)による「PMSホットライン相談室」を設置し、専門カウンセラーがセクハラ、パワハラなどの相談に乗っています。相談者は、手紙、FAX、電話やメールなどの媒体を通して直接相談・苦情を伝えることができ、その相談によって不利益を被ることがないよう、プライバシーを保護しています。

さらにPMSでは、グループ各社における取り組みなどを紹介したレポートなどを発信し、意識と情報の共有を図っています。

● 「パワハラ防止研修会」を実施

国内のプリマハムグループでは、各事業所の従業員を対象にハラスメントを防止するための研修を年1回実施しています。

2015年度はグループ会社を含め計52回の「パワーハ

ラスメント防止研修会」を開催し、管理職や一般職、パートタイム従業員など、プリマハム(株)から449名、グループ会社から530名、延べ979名が参加しました。研修は各グループ会社や事業所ごとに、研修に参加する対象者や、過去の実施回数に合わせた研修を行いました。また、「個人の価値観の違い」「相手を思いやる重要性」を理解できるように新たなツールを取り入れました。

今後も、セクシャルハラスメントを含むハラスメント防止研修を継続し、ハラスメント撲滅に向けた教育の強化を図っていきます。

健全な労使関係

経営の方向性や従業員の待遇などを意見交換

プリマハム(株)では、年4回(四半期に1回)の「中央労使協議会」や月1回の「各支部労使協議会」、そのほか「賃金専門福祉協議会」「食肉・生産・営業分科会」などの各種協議会を通じて、健全な労使関係を構築しています。



地域社会の一員としてコミュニケーションを図り 積極的に社会貢献活動を行っています

社会貢献指針

良き企業市民として社会に貢献

プリマハムグループは、行動規範で「『良き企業市民』として積極的に社会貢献活動を行う」という原則を掲げるとともに、「事業を通じた社会貢献」「地域社会への貢献」「従業員による社会貢献活動の支援」を指針として、さまざまな活動に取り組んでいます。

次世代育成の支援

中学生や高校生の職場体験をお手伝い

プリマハムグループでは、職業観の形成や就職先の選択などにいかすことができるよう、中高生対象に職業体験を受け入れています。

プリマ食品(株)では、埼玉県吉見町教育委員会が主催している「中学生社会体験チャレンジ事業」に協力しています。2015年11月には地元・埼玉県の中学生2名を招き、3日間の職業体験学習を実施しました。

プライムフーズ(株)では、同年10月と11月に地元・群馬県の高校生計7名を受け入れました。当日はチャシューの充填やハンバーグの箱詰め、商品の品質を確認するための検品など一連の業務を体験してもらいました。参加した高校生が



プライムフーズ(株)でつくりたての商品を試食する高校生

らは後日「普段の学校生活とは全く異なる環境に少し緊張しましたが、一つひとつの仕事への責任ややり甲斐を実感できた」「工場に入るときの衛生管理や箱詰め、肉の計測など細かなところまで注意していることがわかった」などの手紙をいただきました。

今後も、こうした体験学習を通じて次世代の育成に貢献していきたいと考えています。

各工場では工場見学も受け入れ

地元企業の活動を知ることで就労へのイメージを持ってもらうこと、そしてものづくりへの関心を持ってもらうことを目的に、プリマハムグループでは各工場では工場見学も受け入れています。

プリマハム(株)では、2015年6月に北海道工場では地元の高校生を招き、ハムやソーセージの生産工程や品質・衛生管理の現場を見てもらいました。

また、プリマ食品(株)でも9月に地元の小学生16名を受け入れ、会社紹介の後、工場を見学しました。



北海道工場を訪れた高校生



地元の小学生がプリマ食品(株)を見学

Topic

子どもたちを対象とした 手づくりウインナー体験教室を開催

2015年8月20・21日、(株)エッセンハウスは「手づくりウインナー体験教室」を佐世保市の百貨店で開催し、2日間で25名の子どもたちが参加しました。

子どもたちは、調理師用のコック帽とエプロンを身につけ、つくり方の説明を聞いた後、専用の器具を使いながら豚肉の腸詰作業やウインナーをひねる作業を体験。レモン風味のウインナーはできたてをポイルして試食し、トマト味はおみやげとして持ち帰ってもらいました。

今後は、九州のほかの百貨店でも子どもの夏休み体験教室として展開していく予定です。



手づくりウインナー体験教室の様子

VOICE

夏休みの思い出づくりをお手伝いします

子どもたちは、充填器のハンドルの重たさや腸のなかに空気が入らないようにするのが少し難しいようでしたが、お母さんの手助けを受けて立派なウインナーを完成させることができました。準備段階ではいろいろたいへんでしたが、子どもたちの笑顔と歓声を聞くと、やって良かったなと思います。今後も、夏休みの思い出づくりに貢献していきたいと思っています。

(株)エッセンハウス 岩本 応邦

「食育」への貢献

2年目を迎え、 出前授業の対象エリアを拡充

プリマハム(株)は、食品メーカーとして子どもたちに「食の大切さ」「食の安全性」を理解してもらうために、小学校への当社オリジナル教材の提供と、当社の従業員による小学校への出前授業に取り組んでいます。

2015年度は、当社のWebサイトに食育申込みページを設けました。また、出前授業の対象エリアの拡大と訪問学校数の倍増を目標にご案内を強化。東京、大阪に加えて、千葉市、さいたま市、横浜市、川崎市、仙台市にエリアを拡大して約3,300校の小学校あてにFAXをお送りしました。その結果、40校から出前授業の申し込みが、34校から教材提供の申し込みがあり、目標を達成しました。

2016年度も、東京、大阪を中心に全国の政令指定都市に絞ってご案内を配信していきます。お申込み数の目標を100校(出前授業50校、教材提供50校)と定め、ご案内回数を増やすなどの工夫をしていく予定です。

2015年度の申し込み実績と目標

	2014年度	2015年度	2016年度(目標)
出前授業	20校	40校	50校
教材提供	11校	34校	50校
合計	31校	74校	100校

● 講師担当者の拡充とともに授業スキルを向上

2015年度は出前授業を増やしたことで講師役の従業員も10名から13名に拡充しました。新しく講師担当となった従業員には事前に研修を開催。授業教材を解説した後、新任講師担当が実際に模擬授業を実施して、参加者全員で改善点や良かった点などを言い合いました。また、2015年度は、クイズ形式の「冷蔵庫をのぞいてみよう!」の一点に絞ることとし、「クイズを介して自分たちで考えるようにする」「クイズに正解した児童以外にも質問し、授業に集中してもらう」などをアドバイスしました。

その甲斐あって、出前授業を実施した小学校のアンケートでは約8割が「とても良い」「良い」と評価してくださいました。また、「普段、発言の少ない子どももたくさん感想を言っていた」「教師も知らないことが多く、勉強になった」「講師の方の一生懸命さが伝わってきて、子どもたちが興味を持って取り組めた」と好評でした。

今後も、講師担当者のスキル向上と出前授業の充実に取り組んでいきます。



2015年度に実施した
出前授業の様子

VOICE

毎回、楽しい時間を過ごしています!

クイズを通じて子どもたちとコミュニケーションをしたり、当社商品を試食した感想を聞いたりするなど、毎回楽しい時間を過ごしています。当社のWebサイトから出前授業の申込みができますので、ぜひご応募ください!



新任講師
(東日本エリア担当)
法務部
鈴木 公栄

<食育教材>

● 「冷蔵庫をのぞいてみよう!」(パワーポイント形式)

身近な「冷蔵庫のなかにある食品」をテーマに、クイズ形式で、食品の正しい保存方法や食品表示の意味、食に関する環境問題などについて学ぶことができます。



● 「保存食のヒミツ」(冊子形式)

「保存食」のつくり方などを通して、食べものを無駄なく大切に食べきる知恵と食べものの大切さを学ぶことができます。



地域活性化への貢献

各地の工場で納涼祭などを実施

プリマハムグループでは、各地の工場を地域の方々に開放して納涼祭を実施し、地域の活性化に貢献しています。

加工食品を製造する秋田プリマ食品(株)では、2015年8月22日に39回目となる「秋田プリマ食品納涼祭」を開催し、800名以上の地域の方々をお招きしました。会場では黒毛和牛骨つきモモ丸焼きやローストポークをはじめ、

VOICE

地域の皆さまの笑顔を見て 予定通り開催できて良かったと思いました

秋田プリマ食品(株)では、地域の皆さまへの日頃の感謝を込めて毎年納涼祭を開催しており、今回で39回目となりました。当日は昼過ぎまで雨が降り、会場となるグラウンドの状態が悪く中止も検討しましたが、開催の問い合わせも多数いただいたため、急遽グラウンドにシートやコンパネを敷いて会場づくりをし、予定通りに開催することができました。来場された皆さまの笑顔を見た時には諦めず開催して本当に良かったと実感しました。

これからも地域の皆さまとともに地域の活性化に貢献していきたいと思っています。



秋田プリマ食品(株)
製造課
真坂 順

ご当地グルメ「本荘ハムフライ」の模擬店を出店。また、「大曲の花火」で内閣総理大臣賞を受賞した(株)小松煙火工業様による打ち上げ花火120発も披露され、会場を盛り上げました。



秋田プリマ食品(株)の納涼祭

地域のイベントに参加

プリマハムグループは、各地域で開かれるイベントなどにも積極的に協力・参加しています。

プリマハム(株)鹿児島工場は、所在地であるいちき串木野市で開催している「さのさ祭り」「地かえて祭り」に毎年参加しています。2015年は、いちき串木野市が市政10周年を迎えて、どちらの祭りも例年以上に盛況となりました。また、7月19日には西日本ベストパッカー(株)やプリマ環境サービス(株)などプリマハムグループから約150名がさのさ祭りの市中流しに参加し、50mの隊列を組みました。さらに、11月7・8日には地かえて祭りが開催され、鹿児島工場も出店。当社製品のフランクフルトは地元の方々にも好評でした。

秋田プリマ食品(株)では9月13日に開かれた由利本荘市教育委員会主催の市民ボート大会「子吉川レガッタ」に

男女各2チームずつ計20名の4艇が出場しました。今年で36回目を迎え、地域の方々にとっては秋の訪れを告げる風物詩として定着しています。



さのさ祭りの市中流し
に約150名が参加



地かえて祭りで
フランクフルトを販売



「子吉川レガッタ」に
20名が参加

海外での社会貢献

タイの2社がマングローブを植樹

2016年3月20日、プリマハムタイランド社とプリマハムフーズタイランド社は合同でタイ東部のラヨーン県バンペーでマングローブを植樹しました。

今回で4回目となるプリマハムタイランド社からは226名、今回で2回目となるプリマハムフーズタイランド社からは124名、総勢350名が参加しました。当日は、植樹の会場に到着後、森林資源の大切さ、植樹活動についての説明を受け、1人2本ずつマングローブを植えました。

今後も植樹活動を継続して、社会や地域に貢献していきます。



マングローブの植樹

Topic

大学、専門学校の研修先として 工場近隣の学生を受け入れ

(プリマハムタイランド社)

プリマハムタイランド社は、2010年から工場近隣の大学や専門学校の企業研修先として学生を受け入れています。また、この研修の参加者のうち数名を事務スタッフやエンジニアメンバーとして採用しています。

2015年度は、7名(大学生6名、専門学校生1名)の研修を実施しました。当日は品管、エンジニアの現場作業に同行し、実地研修をしました。

VOICE

実習がきっかけで入社しました

プリマハムタイランド社で人事部門の実習に参加しました。実習生とはいえ会社の一員として働く以上はきちんと会社のルールを守り、人事部門であるので、従業員の見本とならないといけなと感じました。また、実習生ながら一社会人として受け入れていただけたことに非常に感謝しました。チャンスがあればこの会社に入りたいと思っていたところ、従業員を募集をしていることを知り、無事入社できました。自分が経験したことを今後の研修生にも感じてもらい、同じ仲間として働いてもらえるようにしていきたいです。



研修後に入社した
Amさん

植林・森林保全への貢献

「プリマハムの森林(もり)づくり」

プリマハムグループは、2006年から「プリマハムの森林づくり」として埼玉県の森林保全活動を推進し、プリマ食品(株)の従業員が中心になって間伐作業などを行っています。2015年度の実績は、CO₂吸収量9.6トン-CO₂/年と認証されました。この実績は人間の呼吸によるCO₂年間排出量に換算すると30人分に相当します。

そのほかにも、北海道工場では清水町林業推進協議会主催の植樹祭「しみずグリーンフェスティバル」に従業員ら21名が参加し、サクラ、エゾアカマツなど約500本を植樹しました。

また、秋田プリマ食品(株)では、本荘水源の森育成会主催の育林活動に参加し、1998年に植樹された木々の枝落としや周辺の清掃を実施しました。



プリマハムの森林づくり



「2015しみず
グリーンフェスティバル」
に参加(北海道工場)

環境美化への貢献

事業所周辺地域を清掃

国内のプリマハムグループでは、全国各地の環境美化イベントへの参加や事業所周辺の清掃活動などを通じて、地域の環境美化への貢献に努めています。

プリマハム(株)茨城工場では、2015年7月と2016年3月に地元で開催された「霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦」に参加。各回とも従業員とその家族を含め約120名が、花室川河川敷や茨城工場の近隣地域で空き缶や空きびん、その



「霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦」
(茨城工場)



「ラブアース・クリーンアップ in
北海道 2015」(北海道工場)



「くまもと・みんなの川と
海づくりデー」(熊本プリマ(株))



「ふれあい市野川クリーンアップ
作戦」(プリマ食品(株))

ほかのごみを回収しました。

北海道工場では、2015年5～10月まで実施された北海道全道民を対象にした全道一斉ごみ拾い「ラブアース・クリーンアップ in 北海道 2015」に参加しました。冬季をのぞく約半年の期間中、毎月1回、従業員約10名が参加し、工場周辺地域を清掃しました。

そのほか鹿児島工場でも、月2回、従業員が工場周辺地域のタバコの吸い殻や空き缶などを清掃しています。

グループ会社でも熊本プリマ(株)が一斉清掃活動「くまもと・みんなの川と海づくりデー」に参加するなど、環境美化活動に積極的に参加しています。また、プリマ食品(株)が11月の「ふれあい市野川クリーンアップ作戦」に9名が参加するなど、環境美化活動に積極的に参加しています。

NPOの支援

チャリティウォーク

「WFPウォーク・ザ・ワールド」に参加

プリマハムグループは、国連WFP協会が主催する「WFPウォーク・ザ・ワールド」に2014年から協賛しています。「WFPウォーク・ザ・ワールド」は、途上国の子どもたちの飢餓をなくすチャリティウォークで、参加費の一部は国連WFPの学校給食プ



チャリティウォーク参加者

ログラムに役立てられます。2016年度は横浜と大阪で開催され、それぞれ26名、10名が参加しました。

国連WFP協会を継続支援

プリマハムグループでは、飢餓で苦しむ子どもたちに給食を届けるための「レッドカップキャンペーン」(主催:国連WFP協会)に協力。2015年度も「デミグラスハンバーグ 100g×3」を対象商品として、引き続き、売上げの一部(130万円)を寄付しています。

災害の支援

熊本地震の被災地を支援

プリマハム(株)は、熊本地震の被災地を支援するため、関係省庁や自治体、現地流通業者様と連携し、被災地に当社商品のレトルトソーセージ、ドライソーセージなど22,000パックを支援物資としてお届けしました。

また、義援金として500万円を拠出するとともに、2016年7月1日～8月31日の製造分までを対象に「くまモンのソーセージ義援金キャンペーン」を実施。1箱お買上げいただくごとに15円を義援金として熊本県庁に寄付しました。





低炭素社会 循環型社会 自然共生社会を目指した 環境経営を進めています

環境活動の重点課題

環境保全などの「CSR推進」を 中期経営計画の主要テーマに設定

プリマハムグループは、「2015～2017年度 中期経営計画(ローリングプラン)」において、基本方針のひとつに「CSR推進」を掲げ、その主要テーマとして「環境保全」を社内外に明示しています。こうした認識のもと、「プリマハムグループ環境方針」に基づき、グループ一丸となった環境経営を推進しています。

また、社長が委員長、社内の全取締役が委員を務める「全社環境委員会」を年1回春に開催し、環境側面の重点課題(右表)について議論することで、全役員が環境への意識を高め、進捗の確認にも積極的にかかわる仕組みをつくっています。重点課題については、社会的な影響度や当社グループの取り組みの進捗を踏まえて適宜見直しています。

2015年度は、生物多様性保全への取り組みに向けて、工場排水の水質に関する実態調査を実施しました。また、養豚場など調達先における環境負荷を把握するためのサンプリング調査を実施しました。

2016年6月の全社環境委員会では、これら調査を踏まえて具体的な取り組みを検討しました。また、地域貢献活動として取り組んでいる「食育」が食べ残しの削減にもつながることから、重点課題として盛り込みました。

今後は、プリマハムグループが優先的に取り組むべき環境課題を特定するためにマテリアリティ分析を実施する計画です。

プリマハムグループ環境方針

プリマハムグループは、「健康で豊かな食生活を創造するために安全・安心な商品を提供し、社会と食文化に貢献していく」という基本的な考えのもとに事業展開しています。

食品企業である私たちは、製品原材料の多くを自然の恵みから享受しており、その豊かな自然環境を次世代へ継承する責任があります。

地球環境保全は経営の最重要課題のひとつであると認識し、持続可能な社会の実現に向け、以下の行動指針に基づき、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境経営を推進します。

【行動指針】

- あらゆる事業活動において、エネルギー・水資源の有効利用および廃棄物の削減・再資源化等、環境負荷の極小化に取り組みます。
- 開発・設計から原材料の調達・製造・物流・販売・廃棄にいたるまでのライフサイクル全体を考慮し、環境負荷低減に寄与する製品・サービスの提供および技術の研究に努めます。
- 関連する環境法規制等を順守することはもとより、自主管理基準を設定し、環境リスクの未然防止に努めます。
- 良き企業市民として、地域社会との共生に配慮した事業活動を行うとともに、環境保護活動に積極的に参加します。
- 環境情報を広く適切に開示し、社会とのコミュニケーションをはかります。
- 従業員の環境意識の向上を目的として、環境教育を継続的に実施します。

環境マネジメント重点課題一覧表(抜粋)

	環境側面の重点課題	取り組み内容
廃棄物	製造工程からの廃棄物発生	工程廃棄物の極小化
	商品販売に伴う廃棄物の発生	商品包装の軽量・薄肉化および包装素材の見直し
エネルギー・水	オフィス部門でのエネルギー使用	エコオフィス手順書に基づく省エネルギーの推進 環境設備投資(LED照明導入など)の推進
	製造工程でのエネルギー使用	工程を見直し、設備の省エネルギーを推進
	製造工程での水使用	工程を見直し、設備の水使用量を削減
コンプライアンス	上流・下流の環境負荷	養豚・養牛・養鶏における排泄物からのメタンガス発生量低減 物流におけるCO ₂ 排出量削減
	工場排水の発生	設備管理による適正水質での排水
	緊急事態・事故対応	受入時、保管時の油類の流出防止 屋外保管薬品の流出(タンクなど)防止
生物多様性	環境法令順守	老朽化設備の計画的改修・新設 環境法令の順守(日常管理) 養豚・養牛・養鶏場の環境管理の促進(悪臭、排水、騒音など)
	工場排水による水生生物減少	排水水質の改善への取り組み
環境経営	環境技術の研究	排水の負荷低減と有効利用(リン回収など) 生ゴミ処理用微生物の研究
	環境コミュニケーションの拡充	地域環境活動への参画
		食育の推進
		環境情報の積極的開示「社会・環境報告書」「Webサイト」 日経環境経営度調査スコアUP

● 改善の指標に生産数量原単位を採用し 各事業所の取り組みを横断比較

重点課題で示している環境負荷の低減策のうち、数値化できる課題は、年度ごとに継続的な改善が進むよう具体的な数値目標を設定し、その成果を管理しています。

また、地域貢献や生物多様性など、数値化が難しい活動については、環境管理部が主体となり、ISO 14001の認証サイトと連携しながら推進しています。

現在、プリマハムグループは、製造工場10拠点と本社、近畿センターの計12拠点でISO 14001の認証を取得しています。また、ISO 14001の対象外であるタイ・中国などの海外事業所についても調査を実施しているほか、2015年度は米国の製造会社Prima Deli社の調査を実施し、大きな環境リスクがないことを確認しました。

なお、2015年度は環境計画の最終年度となりますが、ISO 14001の規格改訂を踏まえて、計画を1年間延長することとしました。2016年度は、新計画の策定に向けた調査などを進めるとともに、海外事業所の環境活動を管理する体制づくりや、品質監査と連動した仕入先の環境調査などに取り組む予定です。

● グループ会社の取り組み事例

<プライムデリカ(株)>

2014年度から、国内の環境規格「エコアクション21」を取得するための取り組みを開始し、2015年度に本社と相模原工場で取得しました。2018年度までに、12事業所すべてで取得する計画です。

おもな環境目標

環境方針	環境目的	取り組み指標	単位	対象範囲	2015年度 目標	2015年度 実績 (2013年度比)	評価	2016年度 目標 (2013年度比)
廃棄物 排出量の 削減	製造工程から 排出される 廃棄物の削減	食品廃棄物の廃棄率低減 (廃棄物量/原材料仕入量)	%	10工場*	2.59	2.44 (+1%)	○	2.25 (-7%)
		廃プラスチックの廃棄量低減 (廃棄物量/生産数量)	kg/トン	10工場*	21.2	22.2 (-6%)	×	20.3 (-15%)
エネルギー 使用量の削減	製造工程の エネルギー削減	エネルギー使用量原単位 (原油換算値/生産数量)	ℓ/トン	10工場*	398	344 (-10%)	○	322 (-16%)
	オフィスの エネルギー削減	電力使用量	kWh	品川本社	432	417 (-5%)	○	411 (-7%)
				近畿センター	1,827	1,991 (+6%)	×	1,950 (+4%)
	物流における CO ₂ 排出量削減	エネルギー使用量原単位 (原油換算値/取り扱い数量) ※省エネ法報告数値	ℓ/トン	物流車両	6.44	6.16 (+2%)	○	6.10 (+1%)
水使用量の 削減	工場の水使用量 (井戸水、上水道) 削減	水の使用量原単位 (水使用量/生産数量)	m ³ /トン	10工場*	23.7	21.9 (-10%)	○	20.7 (-15%)

*プリマハム(株)北海道工場、茨城工場、三重工場、鹿児島工場、秋田プリマ食品(株)、プリマ食品(株)、プライムフーズ(株)、四国フーズ(株)、熊本プリマ(株)、プリマルーケ(株)の10工場。2015年度に新設された西日本ベストパッカー(株)については、2016年度から対象に含めます。

VOICE

仕事の改善が環境活動にもつながる その実感を一人ひとりに伝えていきます。

「エコアクション21」の導入が決定した当初は、「仕事の負担が増えるのでは?」と懸念する従業員が少なからずいました。そこで、私たちは「環境活動は特別な仕事ではなく、日頃の仕事の延長にある」ことを従業員に伝えました。実際の取り組みを通じて、日々の仕事を改善することが環境活動につながっていくことを実感してもらえ、次第に「環境意識」が高まってきたように感じています。

当社はパートタイマーの方々が多い会社ですので、今後も全従業員が楽しく取り組めるような環境活動となるよう努めていきたいと思っております。



プライムデリカ(株)
環境部
片田 康介



環境活動レポート
を毎年発行

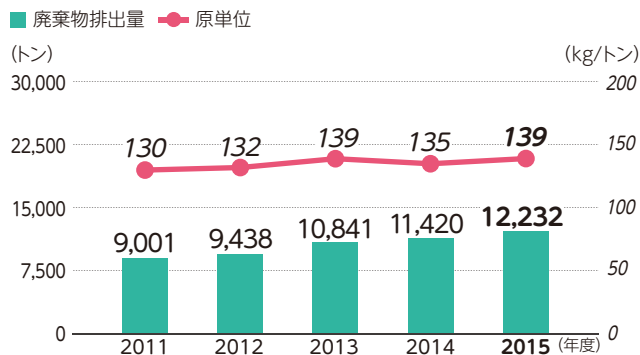
廃棄物排出量の削減

製造現場の工夫で食品残さを削減

工場に入荷したすべてのお肉・食品などをムダなく活用することは、食品会社にとって重要な使命です。しかし、生産品目の切り替えに伴う設備洗浄時に排出される肉片や生産ラインから外れた肉片、異物除去の際に処理される肉片などは、食品残さとして廃棄しなければなりません。

プリマハムグループでは、こうしたムダを少しでも削減できるよう、生産スケジュールを工夫して品目の切り替えを最低限に抑えています。また、洗浄前に設備や容器内に残る肉片を取り除く取り組みが、洗浄作業の効率化や洗浄用水の削減にもつながっています。さらに、運搬や移し替えの際に肉片などの落下を防ぐため、一連のラインに組み替えるなど設備の配置を工夫しており、工程歩留の向上にもつながっています。

年度別廃棄物排出量(10工場)



● グループ各社の取り組み事例

<秋田プリマ食品(株)>

角煮商品を生産する際に生じる端材を有効活用するため「切り落とし商品」を開発し、廃棄物の削減と同時に収益機会の拡大につなげています。

Topic

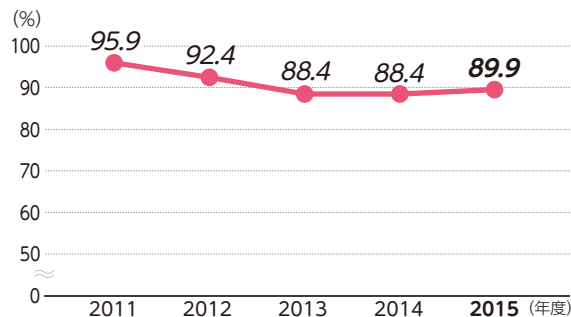
食品残さや廃油のリサイクルを推進

(四国フーズ(株)、プリマルーケ(株))

食品残さや廃油の処理には、多額の費用がかかります。これらを有価物としてリサイクルできれば、廃棄物の削減だけでなく、収益機会につなげることも可能です。

そこで、四国フーズ(株)では加工食品の味付タレから油分を分離・回収する分離槽を導入し、再生油脂原料として外部リサイクル業者に売却しています。また、プリマルーケ(株)では、酢豚製造工程から生じる動植物性残さを飼料としてリサイクルしています。

年度別リサイクル率(10工場)



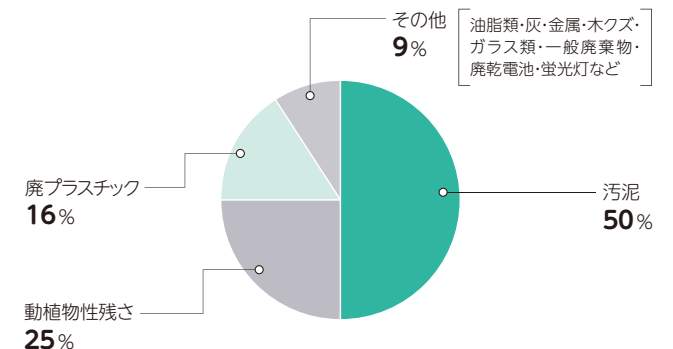
原材料包装資材から出る 廃プラスチックを削減

原材料包装資材などの廃プラスチックについては、リサイクルできるものを選別して売却することで、廃棄量を削減しています。また、包装不良や包装のやり直しの低減、冷蔵保管用のビニールシートのサイズ見直しなど、プラスチックの使用量削減に向けた細かな対策も講じています。

これらの結果、2015年度の廃プラスチック排出量は生産量原単位で22.2kg/トンとなり、目標の21.2kg/トンには届きませんでしたが(目標比95%)、原単位は年々改善されています。

今後は、工程内の取り組みに加え、包装資材や緩衝材などの使用自体の削減にも取り組んでいきます。また2016年度は、これまで洗浄の手間やコスト面から有価売却が難しかった、食肉残さなどが付着した梱包ビニールのリサイクルを促進するため、自前で洗浄・破砕などの処理ができる設備のテストを計画しています。

2015年度 廃棄物排出量内訳(10工場)



● グループ各社の取り組み事例

<プライムフーズ(株)>

原材料となるヒレ肉の包装を、従来の2本入りから5~6本入りに変更することで、包装用プラスチックの廃棄量削減とともに、開封作業の効率化にもつながりました。

<プリマルーケ(株)>

紙とプラスチックからなる粉袋について、これまで全量を廃プラスチックとして有償で処理していましたが、紙のみを分別して有価売却することで、廃プラスチックの削減とコストダウンを図りました。2015年度は調査室において実施し、年間で731kg(2.1%)を削減しました。今後は製造現場にも拡大することで、さらなる削減につなげていきます。

Topic

廃プラスチックの脱水による減量化を推進

(茨城工場)

近年、生産量の増加に伴い廃プラスチックの廃棄量も増加しており、いかに廃棄量を削減するかが課題となっていました。2015年7月に収集運搬状況を検証した結果、廃プラスチックに多量の水分が含まれていることがわかりました。そこで、解凍シートなど特に水分が多いものを中心に、パッカー車で回収して脱水・圧縮することで減量化を図りました。改善成果を検証したところ、7月には生産量あたりの廃プラスチック排出量を前月比で3.7%削減できており、この活動の継続・拡大に取り組んでいます。

排水処理場から発生する汚泥を削減

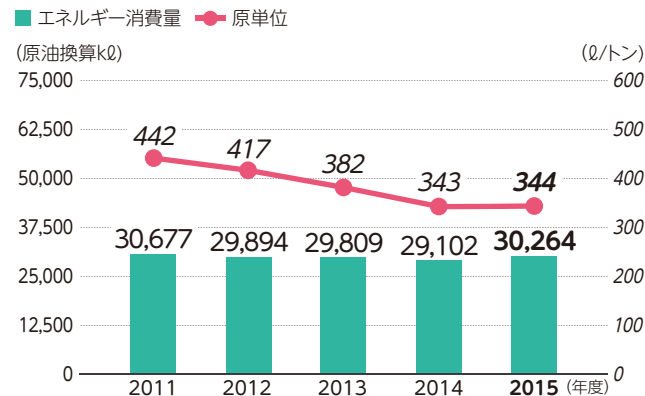
工程からの排水は、浄化したうえで環境に適合した排水として河川などに放流していますが、浄化処理の際に生物処理した微生物は汚泥として廃棄されます。この汚泥には窒素やリンが豊富に含まれており、堆肥などの肥料としてリサイクルしています。例えば茨城工場では、汚泥の全量を真空乾燥し、普通肥料の「プリマ菌体肥料」として肥料業者に販売しています。

エネルギー使用量の削減

生産設備の見直しによる エネルギー効率の向上

近年、生産量が増加傾向にあるプリマハムグループでは、各拠点でエネルギー使用量を削減するために、自動化

年度別エネルギー消費量(10工場)

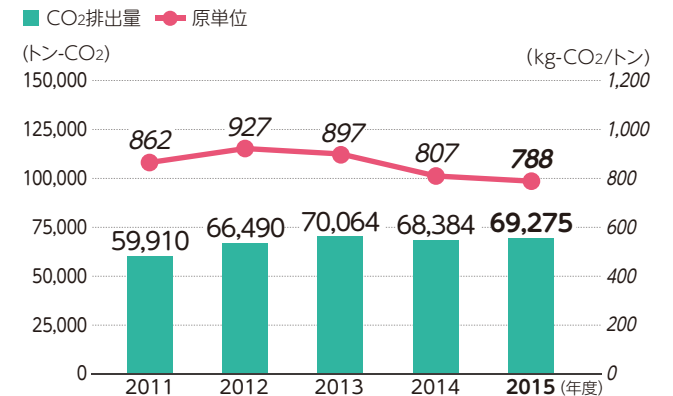


設備を導入するとともに、積み替え作業の削減や設備更新・改造に取り組んでいます。また、作業員一人あたりの生産性を向上させるなど、生産ラインの処理スピードを上げる取り組みにも注力しているほか、老朽化した設備の更新やLED照明の設置も進めています。

2015年度は、茨城工場において包装ラインで使用する真空ポンプを更新するとともに、3ヶ所に分散していた真空ポンプを1ヶ所に集約するセントラル化を実施しました。これによって年間の電力使用量を約7万kWh削減できました。また、三重工場では変電設備の更新により、年間の電力使用量の1%の省エネ化を実現しました。

これらの取り組みによって、エネルギー原単位398ℓ/トンという目標に対し、2015年度の実績値は344ℓ/トン(目標達成率116%)となりました。

年度別CO₂排出量(10工場)



● グループ各社の取り組み事例

<熊本プリマ(株)>

熊本プリマ(株)では、蒸気加熱設備の増設にあわせて、既存の重油ボイラー(蒸発能力1トン)から燃焼効率の高いLPGボイラー(蒸発能力1.5トン)に更新しました。

この燃料転換によってボイラーから排出されるCO₂量は約14%の削減となりました。



重油ボイラーから
LPGボイラーへ更新

オフィスでの エネルギー使用量の削減

プリマハムグループでは、生産現場だけでなく、オフィスにおいてもエネルギー使用量の削減を進めるため、LED照明の導入や、空調用のエアコンを省エネ型に入れ替えるなどの対策を実施しています。これらの結果、2015年度は、品川本社では電力使用量432kWhという目標に対し、実績値417kWh(目標達成率104%)、近畿センターでは目標1,827kWhに対し、実績値1,991kWh(目標達成率92%)となりました。

近畿センターでは、食肉販売の取り扱い数量が増えており、食肉を保管する冷凍庫の電力使用量が増加したことが目標未達に影響しました。



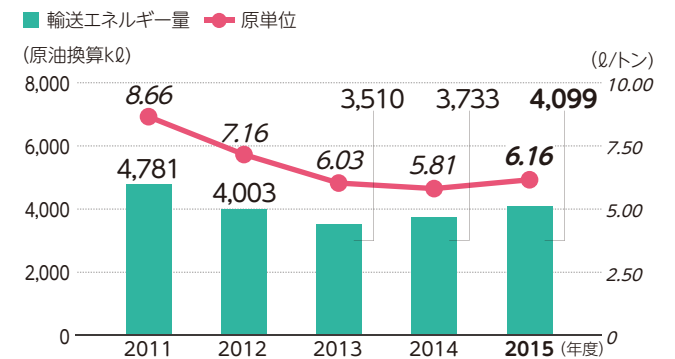
ヒートポンプ式パッケージエアコンに更新
省エネに大きな効果を発揮

物流(輸送)段階での エネルギー使用量の削減

省エネ法の特定荷主に指定されているプリマハム(株)をはじめ、グループ各社が輸送に掛かるエネルギーの削減に努めています。

2015年度は、商品輸送の取り扱い数量が大きく増加したことから、プリマハム(株)が輸送で使用した年間エネルギー量は前年度比で9.8%増の4,099kℓ(原油換算値)となりました。しかし、商品の共同配送の拡大や積載効率の改善、主要幹線便への物流ルートの集中など、より効率的な輸送を推進した結果、取り扱い数量あたりのエネルギー原単位は改善傾向にあり、2015年度実績は6.16ℓ/トン(2012年度比14%減)となり、目標とする6.44ℓ/トン(2012年度比10%減)を達成しました。

輸送エネルギー量の推移



Topic

埼玉県の地球温暖化対策推進条例の 基準を上回るCO₂排出量の削減を達成 (プリマ食品(株))

埼玉県では「埼玉県地球温暖化対策推進条例」に基づき、エネルギー使用量の多い事業者に対して温暖化対策を実施するための計画の策定および報告を義務づけています。同県に拠点を置くプリマ食品(株)では、条例制定以前から省エネルギー化に取り組み、LPGから都市ガスへの燃料転換や高効率ボイラーの更新などを実施した結果、2015年度までに基準年度比(2003~2005年度)でCO₂排出量31.8%削減という、第一計画期間(2011~2014年度)の削減基準である4年平均6%削減を大幅に上回る成果をあげました。

● 自社輸送から委託輸送に切り替え

プリマハム(株)では、近年、自社商品を全国の営業所からトラック配送する従来のスタイルから、商品輸送そのものを物流専門業者に委託する取り組みを進め、自社輸送を削減しています。

こうした取り組みが可能になった背景には、お取引先様の物流センター拠点が増え、センターへ直接納品することが増えたことがあげられます。

今後もサプライチェーンやロジスティックの環境変化にあわせ、より効率的な輸送方法を追求していきます。

Topic モーダルシフトへの取り組み

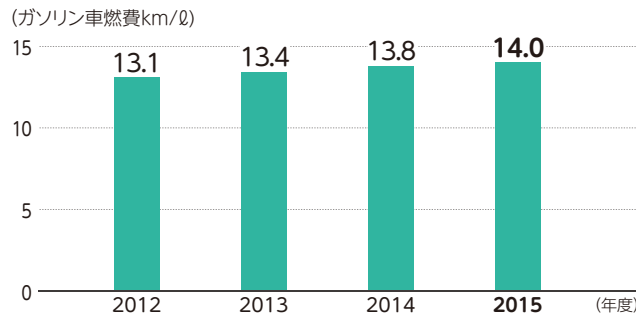
プリマハム(株)では、トラック輸送から鉄道など環境負荷の低い輸送手段に切り替えるモーダルシフトの取り組みを推進しています。2016年2月には、鹿児島から東京への輸送を貨物列車でのコンテナ輸送に切り替える実験を実施。その結果を踏まえて、5月から週1回の定期便として運用を開始しています。今後も費用対効果を検証しながら、ほかの路線についても検討を進めていきます。

● 営業車両における燃費改善

プリマハム(株)では、営業車両の燃費改善に向けてハイブリッド車の導入を進めるとともに、2011年度から営業車両に走行距離や燃料消費量、CO₂排出量などを計測する車載装置(テレマティクスシステム)を導入しました。これによって車両ごとの走行距離、燃料消費量などの走行データを取得・蓄積し、それをもとに運転者への個別指導を行うことで、燃費改善はもちろん事故防止にもつなげています。

併せて、年2回のエコドライブ推進キャンペーンを実施し、キャンペーン期間中にエコドライブ基準を満たした従業員には達成賞を授与しています。年々達成者も増え、エコドライブに対する従業員の意識が進み、燃費向上にも効果が出ています。2016年6月時点で、キャンペーン参加者が473名で、達成率は59%と増加しました。

年度別営業車両燃費(年平均)



水使用量の削減

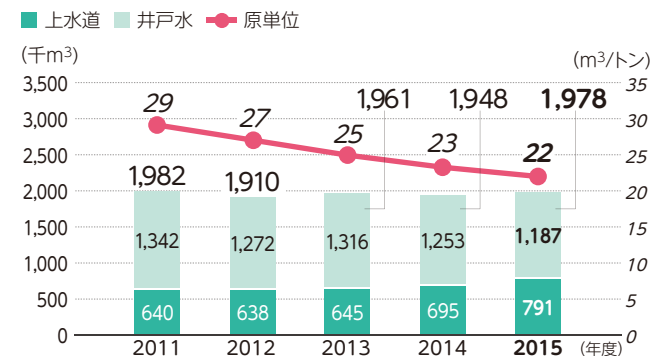
生産ラインの工夫で水使用量を削減

プリマハムグループの生産拠点では、大型の冷凍・冷蔵倉庫が多数稼働しており、冷却のために大量の水を使用しています。これらの水使用量を極力抑えるため、さまざまな工夫をしています。

2015年度は、冷却水の循環利用を積極的に推進するとともに、漏水対策の徹底によって冷却に伴う水使用量を大幅に削減しました。また、設備洗浄に伴う水利用を削減するため、ラインの集約によって生産品目の切り替えを低減するとともに、洗浄方法の機械化・簡素化にも取り組みました。

こうした取り組みの結果、2015年度の水使用量原単位は、ハム・ソーセージ4工場で22.2m³/トン(目標達成率98%)、加工食品6工場で21.2m³/トン(目標達成率136%)となりました。

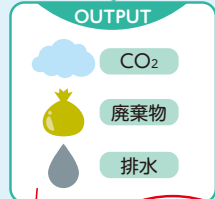
年度別水使用量(10工場)



原材料調達



PR
おもな対策
包装資材の薄肉化、植物由来プラスチックへの切り替えによる石油資源の節約

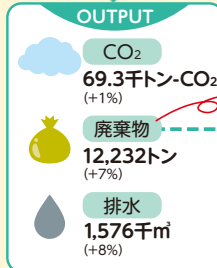
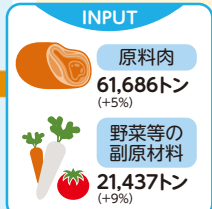


PR
おもな対策
●畜産施設でのリン回収
●包装資材の水溶性印刷

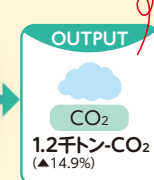
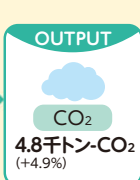
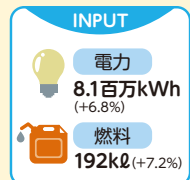
プリマハムの生産・物流



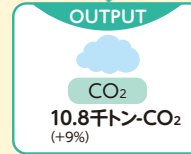
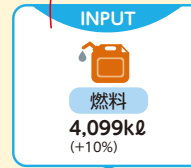
PR
おもな対策
生産ラインの効率化による省エネルギー、節水



PR
おもな対策
●動植物性残さの堆肥化
●廃プラスチックの固形燃料化

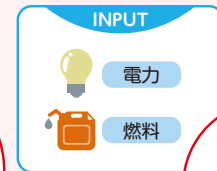


PR
おもな対策
●共同配送
●物流拠点の見直し



PR
おもな対策
システム導入によるエコドライブ推進

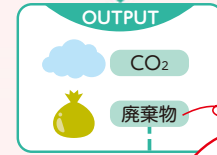
お取引先様/お客さま



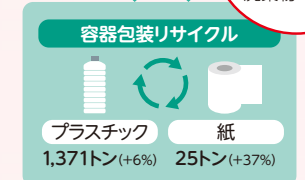
PR
おもな対策
商品のロングライフ化による店舗廃棄物の削減



PR
おもな対策
複数回開閉できるパッケージの採用



PR
おもな対策
包装資材の薄肉化による廃棄物の削減



※カッコ内数値は対前年度比

※データの対象範囲は、プリマハム(株)本社・営業拠点6支店26営業所・生産拠点4工場・物流センター4ヶ所・研究機関2ヶ所、秋田プリマ食品(株)、プリマ食品(株)、プライムフーズ(株)、四国フーズ(株)、熊本プリマ(株)、プリマルーテ(株)

製品・サービスにおける環境配慮

「社内自主基準」に沿って環境負荷の少ない商品を開発

プリマハムグループは、2014年7月に「環境対応商品」の考え方を体系化し、2005年を基準年とした「社内自主基準」を策定しました(右表)。この基準に沿って、容器(パック)材料のプラスチックや段ボールの使用量削減をはじめ、印刷インクにかかわる環境配慮、ご家庭での廃棄物削減に貢献できる工夫など、より環境負荷が少ない商品開発に取り組んでいます。

なかでも重視しているのが、容器包装にかかわる環境負荷です。現在、プリマハム商品の容器包装は、一部に紙製容器も使用されていますが、大半はリサイクルが困難なプラスチック素材です。このため、包装材の使用削減や代替素材の採用など、社会全体の廃棄物削減に寄与する取り組みを推進しています。

● 環境浄化微生物を開発・提供

プリマハム(株)基礎研究所では、社会全体の環境負荷低減に貢献するため、環境浄化機能を持った微生物を開発、提供しています。

例えば、有機性廃棄物(生ゴミ)を効率的に分解する微生物(BP、FN)を食品工場や商業施設などに提供。また、排水中の動植物性油脂を効率的に分解する微生物(YB)を排水処理施設や外食産業に提供しています。

環境対応商品に該当するための「社内自主基準」

容器包装に関するもの	省包材	フィルムの薄肉化
		サイズ軽量化
		ノントレイ化
		外箱(段ボール)のサイズ・入数の見直し
	包装資材のVOC(揮発性有機化合物)削減	水溶性印刷の活用
		溶剤使用量の削減(接着剤の有機溶剤不使用、等)
	非プラスチック包材の活用	植物性包材の活用
		無機系樹脂の活用
	フタピタ(リシールフィルム)機能の活用	
	ノンセパレートラベルの活用	
箱包材への再生紙利用		
商品特性に関するもの	調理における省エネ	自然解凍可能商品への切り替え
		常温保存可能商品への切り替え
	廃棄物削減	可食ケーシング使用
調理器具不使用による環境保全		

パッケージ底材の薄肉化

包装技術の進歩によりフィルムの剛性が向上したため、従来の240μmから220μmに薄肉化し、フィルム使用量を削減

1ケースに入れるパッケージ数を変更

従来は1ケース10パック入れていたものを12パック入りに変更することで、段ボールの使用量を削減

水溶性印刷の採用

包装資材の印刷工程で生じる揮発性有機化合物(VOC)を削減するため、水溶性インキへの切り替えを推進

フタピタ機能によるご家庭のゴミ削減

商品開封後に繰り返し密閉できる「フタピタ」機能により、ご家庭での容器への移し替えやラップ包装を不要に

可食性ケーシングの利用

カルパス・サラミなどで、そのまま召し上がれる皮(ケーシング)を採用し、ご家庭でのごみ発生量を削減

環境監査

2つの監査を併用し チェック機能を強化

プリマハムグループでは、ISO 14001の認証サイトを対象に環境監査を実施しており、内部監査員の資格を持つ従業員による「サイト内監査」と、プリマハム(株)環境管理部が全国のサイトを監査する「全社監査」の併用によって監査精度を高めています。

「サイト内監査」では、内部監査員が事前に監査内容を検討し、監査チェックシートを作成したうえで実施しています。これによって内部監査員自身の主体性が向上し、実態を踏まえた具体的な指摘が増えています。また、内部監査員による「改善提案」も積極的に出されており、グループ全体での環境意識の向上につながっています。

一方の「全社監査」では、環境管理部のスタッフが専門コンサルタントとともに各サイトを訪問し、環境管理責任者の関与や目的・目標の進捗、マニュアルの理解度などに加え、環境施設の日常管理や法令順守状況、サイト内監査で指摘された事項なども確認しています。

● 2015年度の内部監査の結果

「サイト内監査」は、ISO 14001の認証を取得している全部署(12サイト・64部署)を対象に、9月から12月にかけて実施しました。その結果、軽微な不適合が8件、観察を要する案件が43件ありましたが、重大な不適合はありませんでした。また、改善提案が43件、ほかの模範となる優良案件が5件ありました。

「全社監査」は、2015年度、茨城工場、プリマ食品(株)、秋田プリマ食品(株)、プリマルーケ(株)の4サイトを対象に実施しました。プリマルーケ(株)の教育訓練が適切に実施されていないという軽微な不適合があったほか、観察を要する案件が8件ありましたが、重大な不適合はありませんでした。また、改善提案が4件、優良案件が1件ありました。

なお、軽微な不適合については、すべて是正が完了しています。

● 内部監査員に毎年「スパイラルアップ研修」を実施

内部監査員数の不足や新しい監査方法への対応のために、内部監査員の継続的な育成を図っています。2015年度は、新たに11名を養成し、計127名(2016年7月末現在)となりました。

また、内部監査員の継続的なスキルアップを目的とした「スパイラルアップ研修」を毎年実施しています。2015年度は、法令順守への意識を高めるため、廃棄物処理法やフロン排出抑制法などの内容を再確認しました。さらに、内



内部監査員のスパイラルアップ研修

部監査に先立ち、前年の監査結果のレビューを実施し、指摘すべきポイントを共有することで、監査の実効性を高めました。

VOICE

改善提案を機に災害への備えを充実しました

サイト内監査における改善提案では、環境面での改善にとどまらず、法令順守やリスク管理など幅広い側面から提案を行っています。

鹿児島では2015年8月下旬に大型台風の被害があり、鹿児島工場がある串木野周辺も、午前3時頃から約15時間にわたって停電しました。工場では午前5時頃に発電機を稼働させようとしたのですが、3台同時に立ち上げたため負荷が大きくなり、スターターが起動せず、給電まで時間を要するという事態となりました。

この反省を踏まえ、10月に実施した内部監査において、今後の緊急時に備えて発電機の運用を再度見直し、停電時の対応確認が効果的であるとの改善提案をしました。この提案をきっかけに非常時の備えが充実したのはもちろん、危機管理意識の向上にもつながりました。



鹿児島工場
生産技術課
竹下 博幸

廃棄物処理管理の強化

廃棄物処理のマネジメントには高度な専門知識が必要となります。そこでプリマハムグループでは、廃棄物の専門コンサルタントを招聘。グループの廃棄物担当者が廃棄物処理委託業者の現地確認を行う際は、コンサルタントに同行いただき、許可証や処理施設の点検書類が適切に管理されているか、施設の処理能力が基準を超えていないか、処理前の廃棄物保管状態が乱雑でないかなど、確認すべきポイントを学んでいます。

2015年度は、担当者が独自で現地確認をできるようマニュアルやチェックシートを整備し、これらを用いて12業者で現地確認を実施しました。なお、チェックシートは現地確認後に環境管理部およびコンサルタントが二重チェックを行っています。

また、ISO 14001認証取得サイト以外でも、廃棄物に関する教育や廃棄物実態調査を実施しています。2015年度は2営業所で実態調査を実施し、廃棄物保管状況や委託手続き、処理フローなどを点検しました。この結果、産業廃棄物の排出自体が少なく、管理も適切に行われていることを確認。産業廃棄物の処理を自治体のルールに沿って処理するようマニュアルを再整備しました。

● 廃棄物情報を一元管理できる 「廃棄物管理システム」を運用

プリマハム(株)では、廃棄物管理に必要なマニフェスト(管理票)交付業務を一元管理するシステムを導入。マニフェスト回収管理、委託業者の管理、監査記録の掲載などについて、記入漏れや有効期限などをシステム上でチェックするとともに、確実に廃棄処分が行われているか、処分完了までのフローはどうなっているか、なども確認できます。

環境意識の向上を目的に 環境教育を継続的に実施

プリマハム(株)では、従業員一人ひとりの環境意識を向上させるため、環境教育を継続的に実施しています。

グループ各社の従業員を対象とした年1回の「一般教育」では、グループの環境方針や目標を共有するとともに、各種のマニュアルや手順書を説明しています。教材については、毎年、サイトごとの課題や社会的な環境問題を踏まえたコンテンツ内容を更新することで、受講者の意欲を高めています。

加えて、廃棄物管理担当者や排水処理施設担当者など、環境への影響が大きい業務の担当者を対象とした「特定教育」を年1回実施し、担当業務の手順教育や緊急時の対応などを教育しています。また、業務に必要な公的資格の取得を計画的に進めるとともに、各サイトで緊急時を想定した模擬テストも実施しています。

環境リスクへの対応

「環境法令違反ゼロ」を目指して さまざまな施策を展開

プリマハムグループでは、環境法令違反ゼロを継続的に実現していくため、全社環境委員会に加えて、ISO 14001の認証を取得している各サイトで環境委員会を年4回開催しています。2014年度からは、この委員会に議長として各工場長、支店長、各グループ会社社長が参加しており、意思決定のスピードアップや、各施策の実効性強化につなげています。

実務面では、「環境法令チェックシート」を導入し、関連法令の見落としや、設備新設時や人事異動による届出漏れを防ぐなど、法令順守の強力なツールになっています。2015年度は、法令チェックシートの利便性やチェック精度を高めるため、届出書変更時や設備更新時、定期点検頻度など、対応別に必要な文書記録のチェックリストを追加しました。

法改正などの動向については、環境管理部が審査会社や専門コンサルタントから月次で情報を入手し、必要な情報を各サイトに配信しています。2015年4月に「フロン排出抑制法」が施行された際は、法制度の内容に加えて、各地で開催される講習会についても発信し、担当者に受講を促しました。なお、県条例などは各サイトでそれぞれ情報を入手しています。

PCBの保管と処分

有害物質であるPCB(ポリ塩化ビフェニル)を含む機器については、グループ全体で台数を把握し、適正に管理しています。高濃度PCBについては、公的な処理施設である日本環境安全事業(株)への処分登録を行い、同社の処理計画に基づいて順次処分を実施しています。

高濃度PCB含有機器の処分は、当初計画した機器はすべて処分完了しましたが、2015年新たに蛍光灯安定器に高濃度PCBが見つかり、追加処分に向けて手続きを進めました。現在、微量PCB含有機器の処分を各サイトで行っています。2015年度は、九州支店3台、帯広営業所2台、関西支店1台、秋田プリマ食品(株)2台、四国フーズ(株)1台の処分実績があります。

化学物質の適正管理

プリマハムグループでは、品質管理業務や工場内の洗浄、排水処理などで各種の化学薬品を使用しています。これらすべてについてSDS(安全データシート:Safety Data Sheet)を入手し、化学物質の適正管理に努めています。また、フロンガス、塩化第二鉄などPRTR法(化学物質排出把握管理促進法)に該当する化学物質については、法令に基づいて廃棄・排出の移動量の集計・届出を行っています。フロンガスについては、「フロン排出抑制法」の施行により、2016年度から充填・回収量を報告する義務が発生しており、同法に基づくデータ収集を開始しています。

Topic

排水処理設備の更新による 排水の水質安定化

(北海道工場)

北海道工場では、老朽化していた排水処理場の加圧浮上槽を新鋭機に更新しました。これにより、排水に含まれる油分や浮遊物質の除去能力が強化され、排水処理場の負荷軽減とともに、排水水質の安定化に寄与しています。



「企業の環境経営度調査」に参加

プリマハム(株)は、日本経済新聞社が実施する「環境経営度調査」に2013年度から参加し、環境対策や経営効率などを他社との比較のもとに客観的に評価するために役立てています。

3回目の回答となった2015年度は、環境対応商品の売上高比率の向上や、海外事業所の環境負荷把握、廃棄物のリサイクル促進など取り組み強化が評価された結果、前回より大きく評価を上げました。

調査結果

	2014 年度	2015 年度	差異	製造業(食品) 平均スコア
スコア	229	353	+124	327
順位	35	19	+16	

*スコアは500点満点

*順位は製造業(食品)43社中



生産拠点における環境への取り組み ＜茨城工場の新ウイナープラント＞

最先端のウイナープラントで 環境負荷低減を強化

2016年5月に完成したプリマハムグループ最新鋭の新プラントは、生産能力の拡充とあわせて、徹底した省エネルギー化が特徴です。生産工程のライン化によって搬送や容器の移し替えなど生産工程のムダを排除したことで、品質や安全衛生の向上とともに、エネルギー消費効率も大幅に向上しています。さらに、エネルギー効率の高い給湯システムや太陽光発電などの導入により、クリーンで効率的な生産環境を実現。従来工場と比較して、電力使用量の20%削減を見込んでいます。



新ウイナープラント

● 集中制御によりムダのない稼働を実現

冷凍機システムやエアコンプレッサーの集中制御により、生産状況に応じて必要な台数だけ稼働させることが可能。ムダのない稼働によって、工場全体の省エネ化に寄与しています。



集中制御室



冷凍機システム

● 太陽光発電を導入し 従業員の環境意識づくりにいかす

新プラントでは、壁面を利用した太陽光発電システムを導入するとともに、その発電状況や省エネ効果を“見える化”したモニターを掲示することで、従業員一人ひとりに省エネ意識を浸透させています。



太陽光発電設備



発電状況を示したモニター

● 大気や水質、悪臭など周辺環境への配慮を徹底

冷凍機の冷媒にはオゾン層に悪影響をもたらすフロンを利用せず、自然冷媒を採用しています。また、燻煙工程からの排煙は消煙装置によって、排水についても処理施設によって浄化したうえで排出しています。さらに、食品廃棄物は集積場を整備して周囲への悪臭を防ぐなど、さまざまな視点で周辺環境への影響を低減しています。



排煙装置

● LPGへの燃料転換

ボイラーの燃料には、従来の重油ではなく、燃焼時のCO₂やSO_x(硫黄酸化物)、NO_x(窒素酸化物)の排出量が少ないクリーンなエネルギーであるLPG(液化石油ガス)を採用しています。



ボイラー



LPGタンク

● LED照明を全館に導入

蛍光灯や水銀灯に比べてエネルギー効率や照明効率が高く、長寿命なLED照明を全館に導入。消費電力の削減はもちろん、取り替え頻度の減少によって廃棄物の削減にもつながります。



LED照明



環境パフォーマンスデータ

ISO 14001認証取得箇所(2015年度)

事業内容	箇所名	所在地	生産数量(トン)	
ハム・ソーセージの製造	プリマハム(株)	北海道工場	北海道上川郡	4,820
		茨城工場	茨城県土浦市	27,216
		三重工場	三重県伊賀市	23,286
		鹿児島工場	鹿児島県いちき串木野市	17,624
加工食品・惣菜の製造	秋田プリマ食品(株)	秋田県由利本荘市	4,900	
	プリマ食品(株)	埼玉県比企郡	5,480	
	プライムフーズ(株)	群馬県前橋市	3,606	
	四国フーズ(株)	香川県丸亀市	2,791	
	熊本プリマ(株)	熊本県菊池市	4,495	
	プリマルーケ(株)	長崎県雲仙市	1,116	
営業・事務部門(オフィス)	プリマハム(株)	品川本社	東京都品川区	—
		近畿センター	大阪府大阪市	—

エネルギー使用量、CO₂排出量、水使用量

箇所名	年度	購入電力量(千kwh)			燃料使用量(原油換算kℓ)			CO ₂ 排出量(トンCO ₂)			水使用量(千m ³)			
		2013	2014	2015	2013	2014	2015	2013	2014	2015		2013	2014	2015
北海道工場		4,981	5,034	5,280	639	592	568	5,096	4,960	5,090	上水道	22	29	25
											井戸水	168	155	161
茨城工場		20,918	20,055	20,299	2,333	2,168	2,255	17,197	16,400	16,249	上水道	34	33	34
											井戸水	537	547	548
三重工場		13,069	13,569	13,905	1,971	2,080	2,164	11,982	12,496	12,667	上水道	97	120	164
											井戸水	184	186	176
鹿児島工場		8,185	8,417	10,811	1,472	1,391	1,796	8,895	8,829	10,783	上水道	268	289	346
											井戸水	51	51	51
秋田プリマ食品(株)		4,320	4,555	4,549	804	780	669	4,714	4,754	4,383	上水道	83	82	77
プリマ食品(株)		7,182	6,797	6,581	1,780	1,621	1,712	7,212	6,737	6,633	上水道	120	119	124
プライムフーズ(株)		4,971	4,634	4,727	475	381	381	3,816	3,411	3,345	井戸水	149	109	94
四国フーズ(株)		2,619	2,516	2,625	437	392	389	2,981	2,787	2,789	上水道	20	22	22
											井戸水	15	13	14
熊本プリマ(株)		5,705	5,801	5,692	1,182	1,043	977	6,650	6,343	5,872	井戸水	143	128	108
プリマルーケ(株)		1,590	1,670	1,597	239	283	231	1,522	1,673	1,463	井戸水	69	63	35
品川本社		441	411	417	61	56	56	330	309	302	上水道	—	—	—
近畿センター		1,883	1,907	1,991	26	29	28	1,019	1,052	1,111	上水道	12	12	12

※一は当該項目対象外です

廃棄物関連

箇所名	年度	排出量(トン)			リサイクル率(%)		
		2013	2014	2015	2013	2014	2015
北海道工場		441	446	559	84.5	89.2	78.4
茨城工場		920	931	1,152	100	100	86
三重工場		1,662	1,816	1,933	100	100	100
鹿児島工場		1,907	1,914	1,978	95.9	94.7	88.2
秋田プリマ食品(株)		729	709	741	57.7	54.7	55.2
プリマ食品(株)		1,919	1,892	1,978	100	100	100
プライムフーズ(株)		630	802	822	77.4	100	100
四国フーズ(株)		909	898	1,034	53.3	28.5	67.6
熊本プリマ(株)		1,551	1,753	1,916	84.8	90.1	95.8
プリマルーケ(株)		174	261	210	100	86.7	83.7

排水の水質管理状況(2015年度)

箇所名	pH			BOD(mg/ℓ)		
	規制値	最大	最小	規制値※1	最大	最小
北海道工場	5.8~8.6	7.9	6.9	80	20	7.6
茨城工場	5.8~8.6	7.3	6.1	15	4.8	0.5未満
三重工場	5.8~8.6	7.6	7.0	25	1.2	0.5
鹿児島工場	5.8~8.6	7.7	7.4	30	21	4.3
秋田プリマ食品(株)	5.8~8.6	8.1	6.9	30	7.7	0.5未満
プリマ食品(株)	5.8~8.6	8.2	7.9	25	3.3	1.1
プライムフーズ(株) 本社工場	5.8~8.6	8.0	7.8	25	9	1未満
プライムフーズ(株) 力丸工場	5.8~8.6	7.7	7.2	25	2	1未満
四国フーズ(株)※2	5.0~9.0	8.3	5.1	600	54	1.4
熊本プリマ(株)	5.8~8.6	7.9	7.6	40	5	1
プリマルーケ(株)	5.8~8.6	7.5	7.0	160	3	1.3

※1 日間平均値 ※2 公共下水道の排出基準に準じて下水放流しています

大気汚染物質の管理状況(2015年度)

箇所名	設備	ばいじん量(g/Nm ³)		SOx(Nm ³ /h)		NOx(ppm)	
		規制値	実測最大値	規制値	実測最大値	規制値	実測最大値
北海道工場	ボイラー	0.3	0.01未満	3.9	0.07	180	100
茨城工場	ボイラー	0.3	0.005未満	4.59	0.098	180	96
三重工場	ボイラー	—	—	—	—	—	—
	発電機	0.1	0.055	0.18	0.16	950	820
鹿児島工場	ボイラー	0.3	0.015	5.06	0.08	—	—
	発電機	0.1	0.072	1.09	0.1	950	913
秋田プリマ食品(株)	ボイラー	0.3	0.01未満	16	0.18	180	100
プリマ食品(株)	ボイラー	—	—	—	—	—	—
プライムフーズ(株) 本社工場	ボイラー	—	—	—	—	—	—
プライムフーズ(株) カ丸工場	ボイラー	—	—	—	—	—	—
四国フーズ(株)	ボイラー	—	—	0.74	0.14	—	—
熊本プリマ(株)	ボイラー	—	—	0.53	0.13	—	—
	発電機	0.1	0.01	2.6	0.44	950	520
プリマルーケ(株)	ボイラー	—	—	—	—	—	—

※—は当該項目対象外です

プリマハムグループは、さまざまな場面で健康で豊かな食生活を支えています



加工食品の製造・販売

おなじみのコンシューマーパック商品から業務用商品まで、お客さま・お取引先様のニーズに対応した商品を生産しています。

量販店、コンビニエンスストア、精肉店などで販売されています。また、オンラインショップでも当社商品の購入が可能です。



コンビニエンス ストア向け 商品の製造・販売

調理パン、スイーツ、サラダ、軽食、惣菜など、さまざまな商品を、新鮮な状態でお届けしています。



連結グループ会社

加工食品の製造事業

- 秋田プリマ食品(株)
- プライムフーズ(株)
- プリマ食品(株)
- 四国フーズ(株)
- プリマルーケ(株)
- 熊本プリマ(株)
- プリマ環境サービス(株)
- PRIMAHAM(THAILAND) CO.,LTD.(タイ)
- PRIMAHAM FOODS(THAILAND) CO.,LTD.(タイ)
- 康普(蘇州)食品有限公司(中国)

コンビニエンスストア向け バンダー事業

- プライムデリカ(株)
- Prime Deli Corp.(米国)
- (株)プライムベーカリー

食肉、ハム・ソーセージ、 加工食品の販売事業

- 北海道プリマハム(株)
- 北陸プリマハム(株)
- 佐賀プリマ販売(株)

精肉・惣菜・ 加工食品等の小売事業

- プリマハム近畿販売(株)
- (株)エッセンハウス
- 東栄フーズ(株)
- 菜陽普瑞食品有限公司(中国)
- 連結子会社 ○ 持分法適用会社



食肉および加工肉の製造・販売

海外サプライヤーと協力して安全で高品質なオリジナルブランドミートをお届けしています。



ナショナルビーフ社の登録商標です。



フレッシュミートをカットした規格肉や味つけ肉・衣つけ肉などを生産、販売しています。



総合人材サービス

人材の教育、開発、派遣や保険などのトータルサポート

情報システム

システム開発、管理、運営、情報セキュリティの確保、維持

研究・技術開発

食品の検査・安全性の確保と検査キットなどの販売
マイクロマンニピュレーション関連機器の開発、製造・販売など

養豚関連事業

関連会社牧場および国内協力牧場を通じて安全・安心で高品質の種豚・肉豚を生産しています。



連結グループ会社

食肉の販売事業

- 関東プリマミート販売(株)
- 関西プリマミート販売(株)

食肉の加工事業

- (株)かみふらの工房
- 茨城ベストパッカー(株)
- 西日本ベストパッカー(株)

食肉の物流事業

- プリマロジスティックス(株)

養豚関連事業

- 太平洋ブリーディング(株)
 - Swine Genetics International, Ltd.(米国)
 - (有)かみふらの牧場
 - (有)肉質研究牧場
- 連結子会社 ○ 持分法適用会社

連結グループ会社

- プリマ・マネジメント・サービス(株)
- プリマシステム開発(株)
- (株)つくば食品評価センター
- プライムテック(株)
- (株)Global Meat Investment Partners

■ 連結子会社 ○ 持分法適用会社